

特53

771



山岡鐵舟

山岡鐵舟君題字

大

明治二十六年六月廿七日買得之

雲英是耀著

國
明
香
匪

版權所有者藏版

特 56
771



山岡鐵舟

侯爵醍醐忠重寄贈



明治三十一年六月廿七日買得之

山岡鐵舟

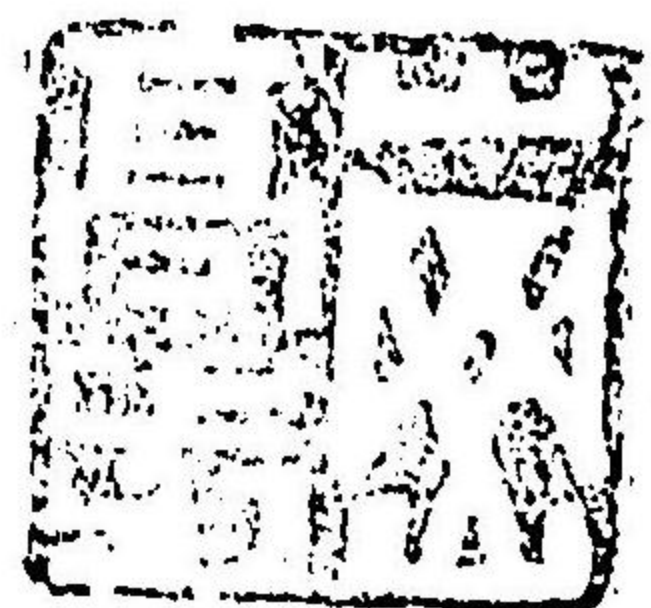
山岡鐵舟

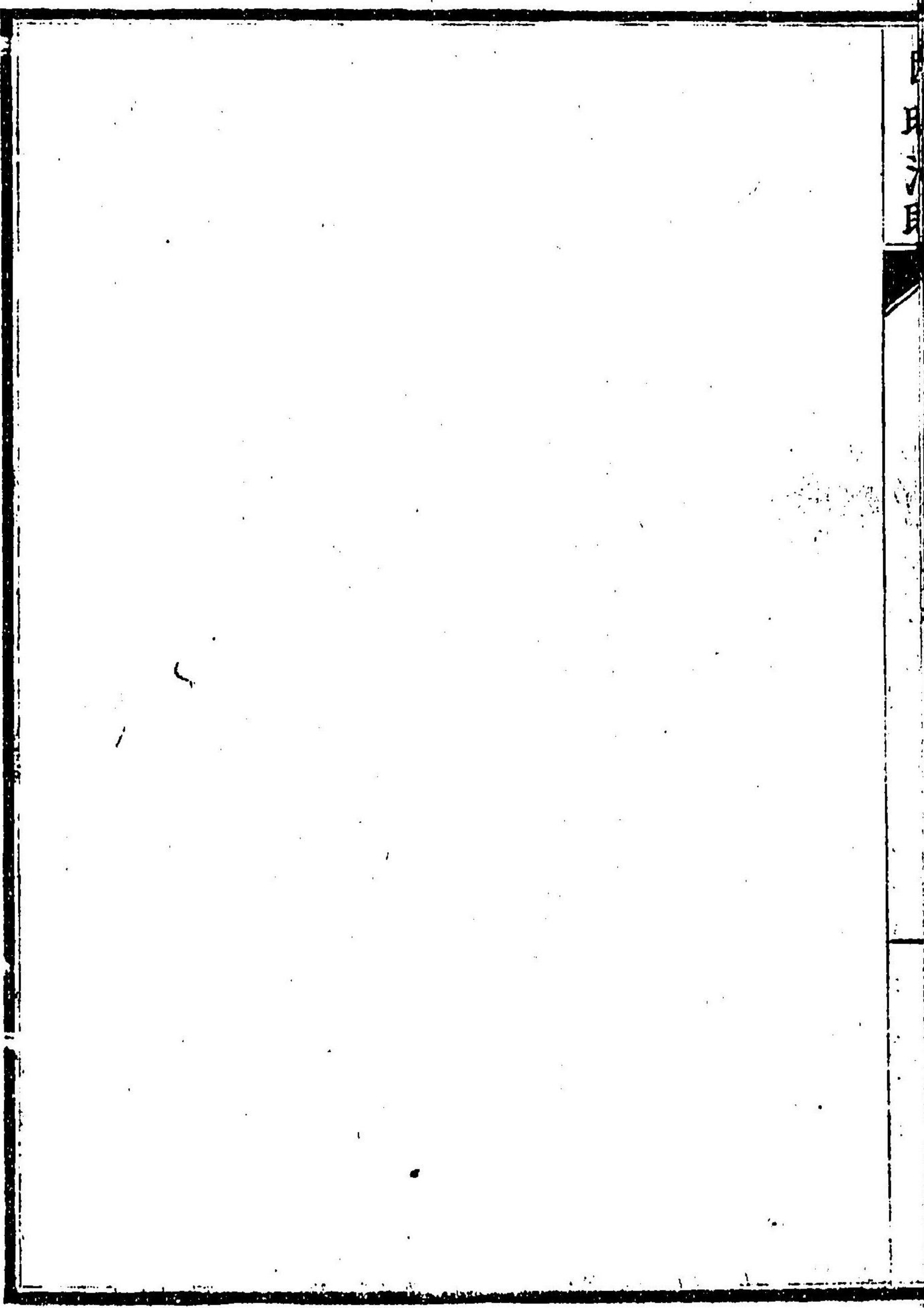
一





可
以
自
然





田明活法序

田明活法者名是維也定元正
邪至利也活法活法也
西以筆亦好也唐出日未也
而之從末兩國也
宗乃秘藏也

學之誨也。學者之學。其法
在學。守之志。其有存乎。活法正
知。下也。是心之。久しく埋没し
て。世に乃。學林上流。布衣。上
下。其。體。下。平時。我國。乃
文化。大。進。行。て。議。論。を。出

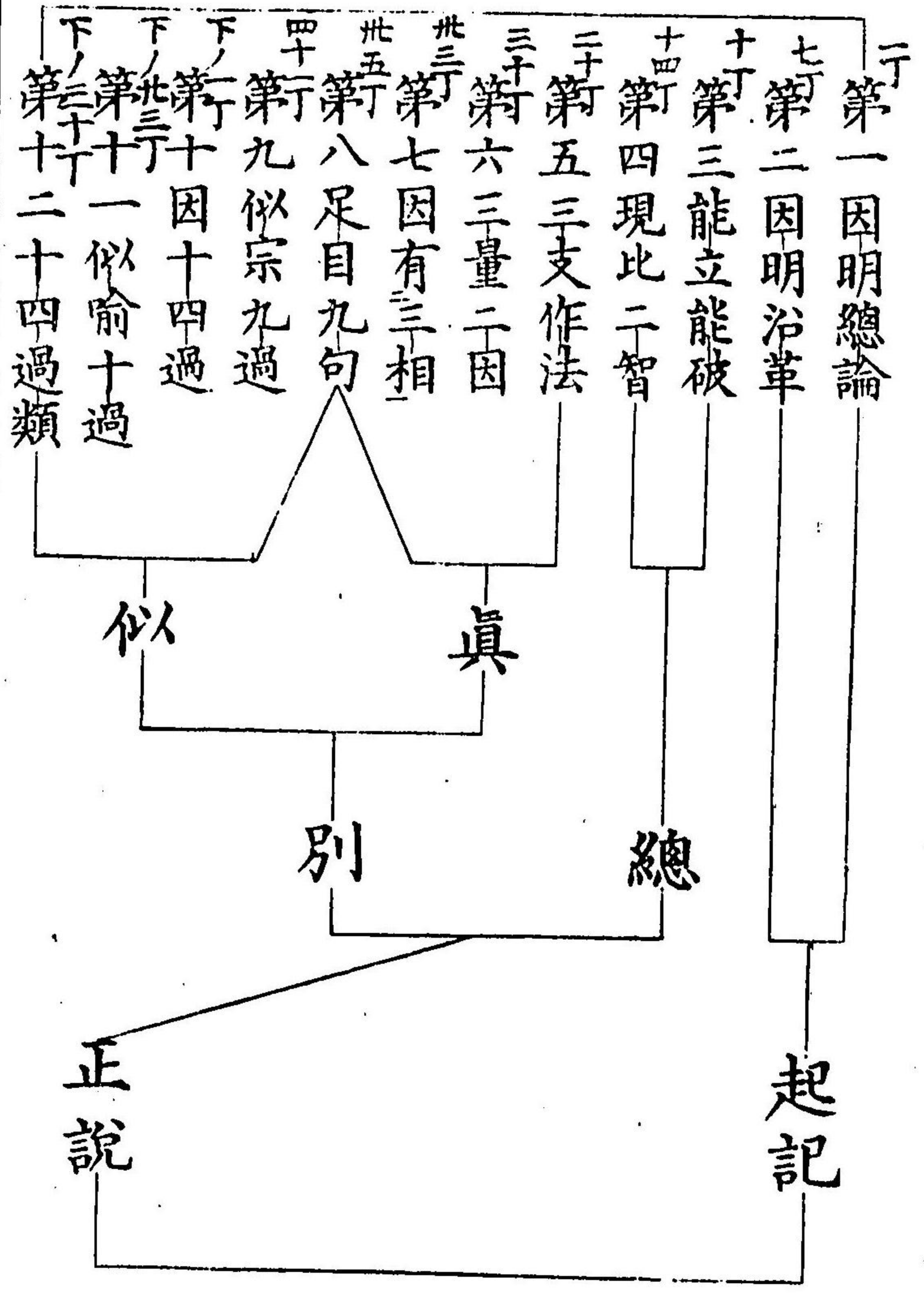
是也。乃。傳。其。法。我。を。考。へ。今
若し。此。法。を。活用。し。て。其。正。科
を。出。し。人。心。を。一。人。傳。其。法。
既。を。知。し。志。を。正。法。の。心。を。
正。法。の。一。大。法。審。み。可。令。活。何
此。學。を。其。志。以。活。法。を。廣。む

其意元七嘉慶年編入本深
此乃當時子益安所信志師
師乃當之為一言之善端
又志乃生之志之宗
以此七年書之

信長得卷

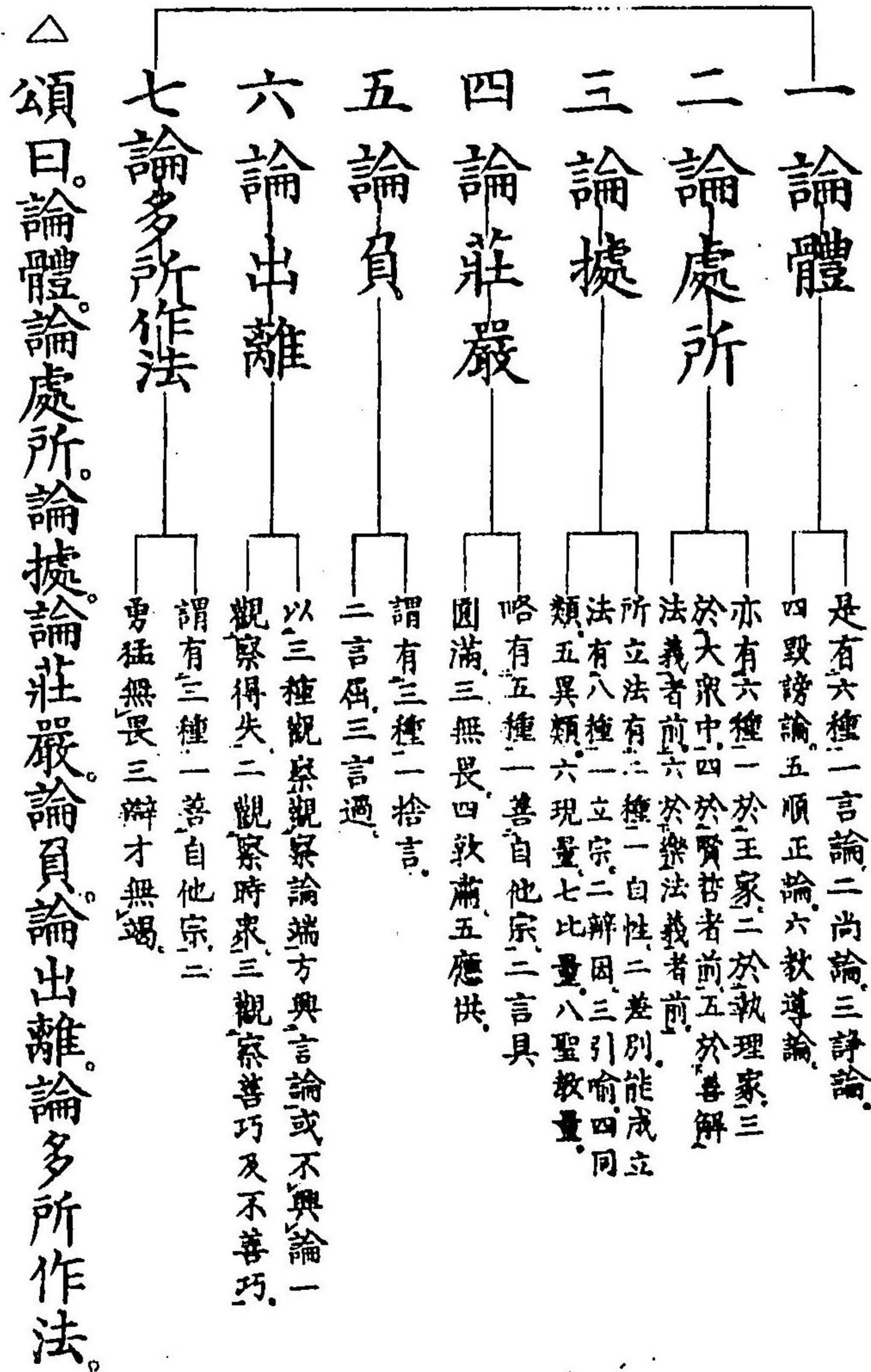


○十二章段列次圖

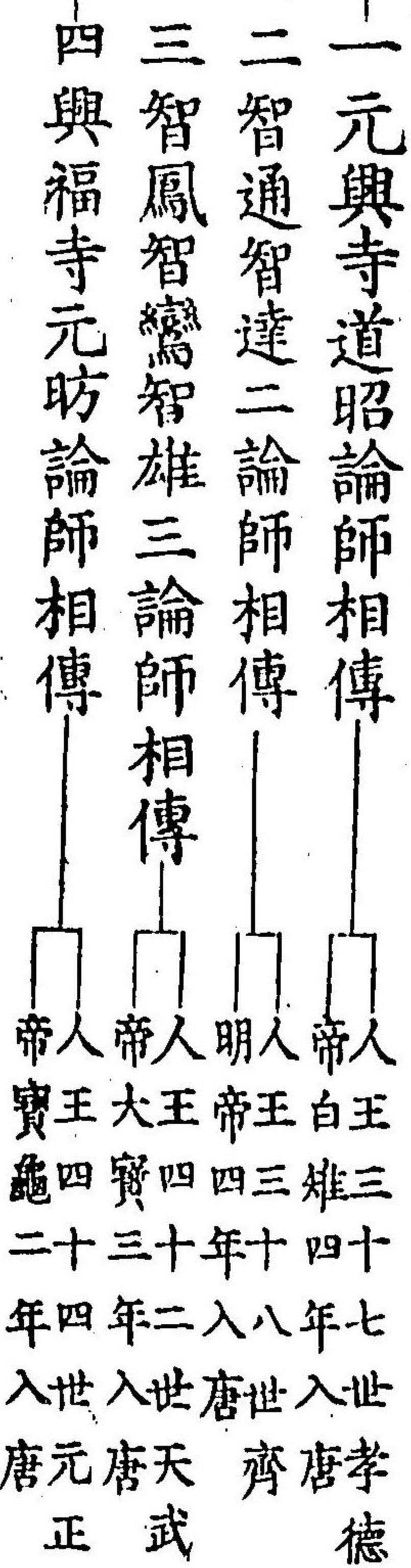


○瑜伽七因明圖

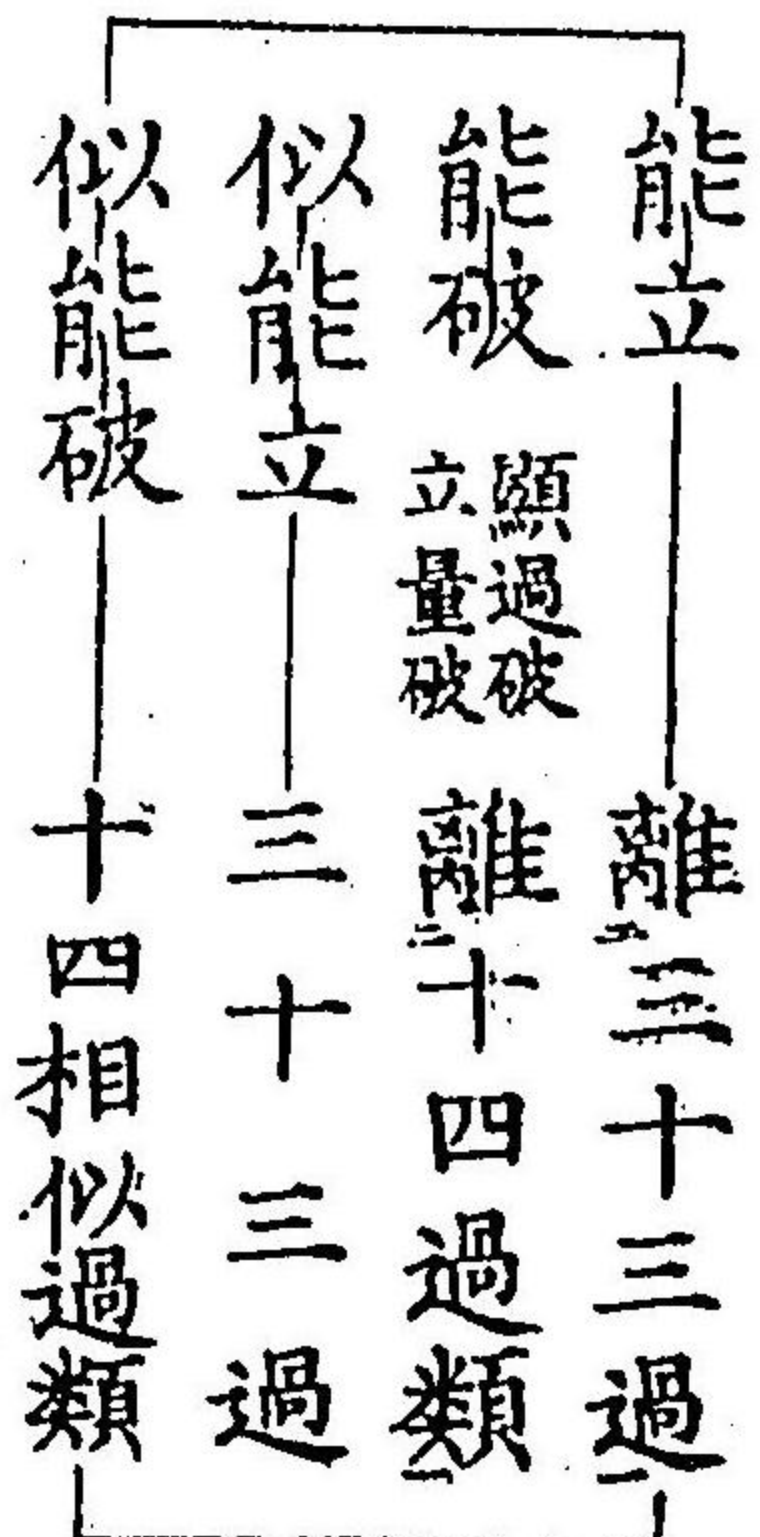
論十五 四葉



○日本四傳圖



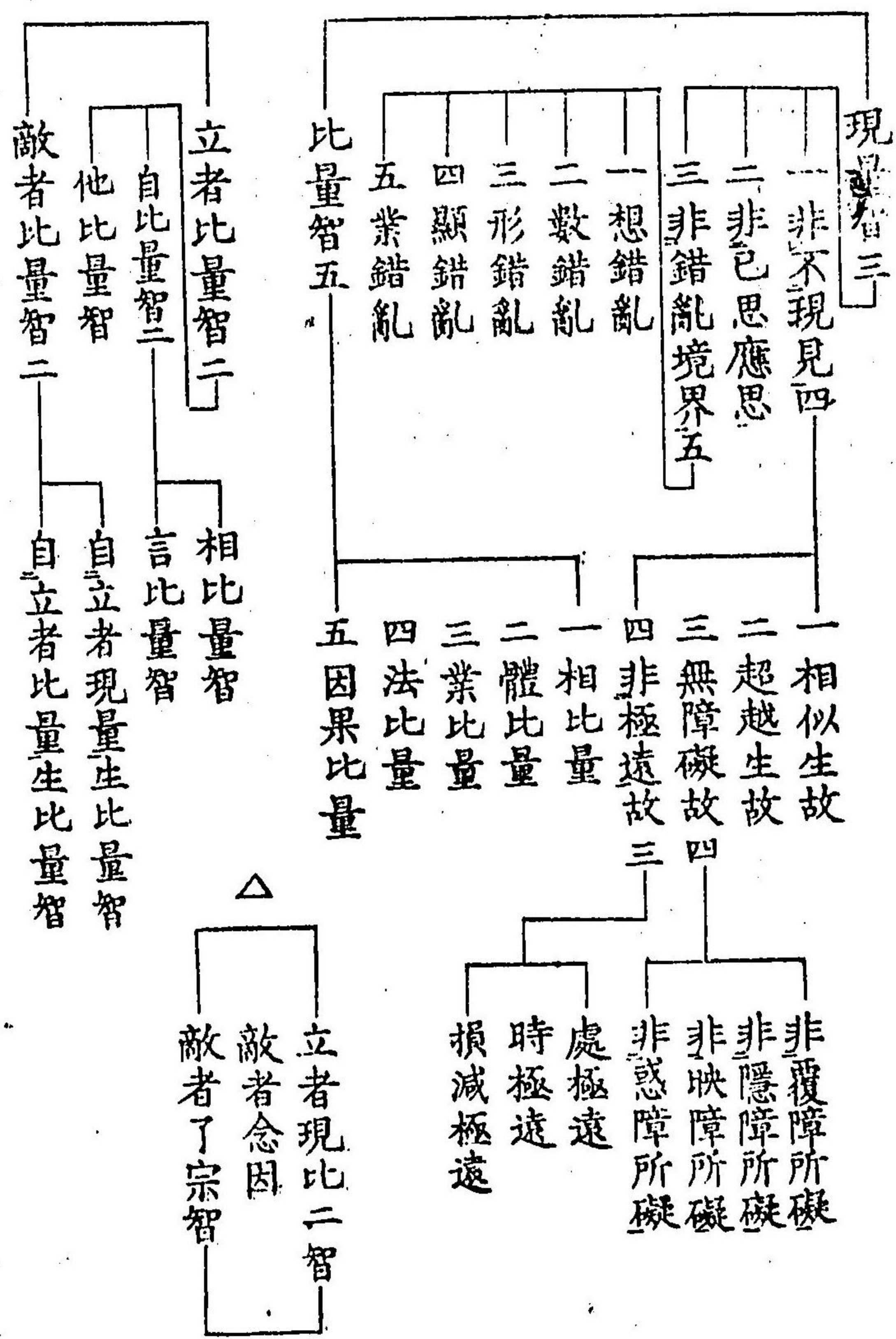
○能立能破圖



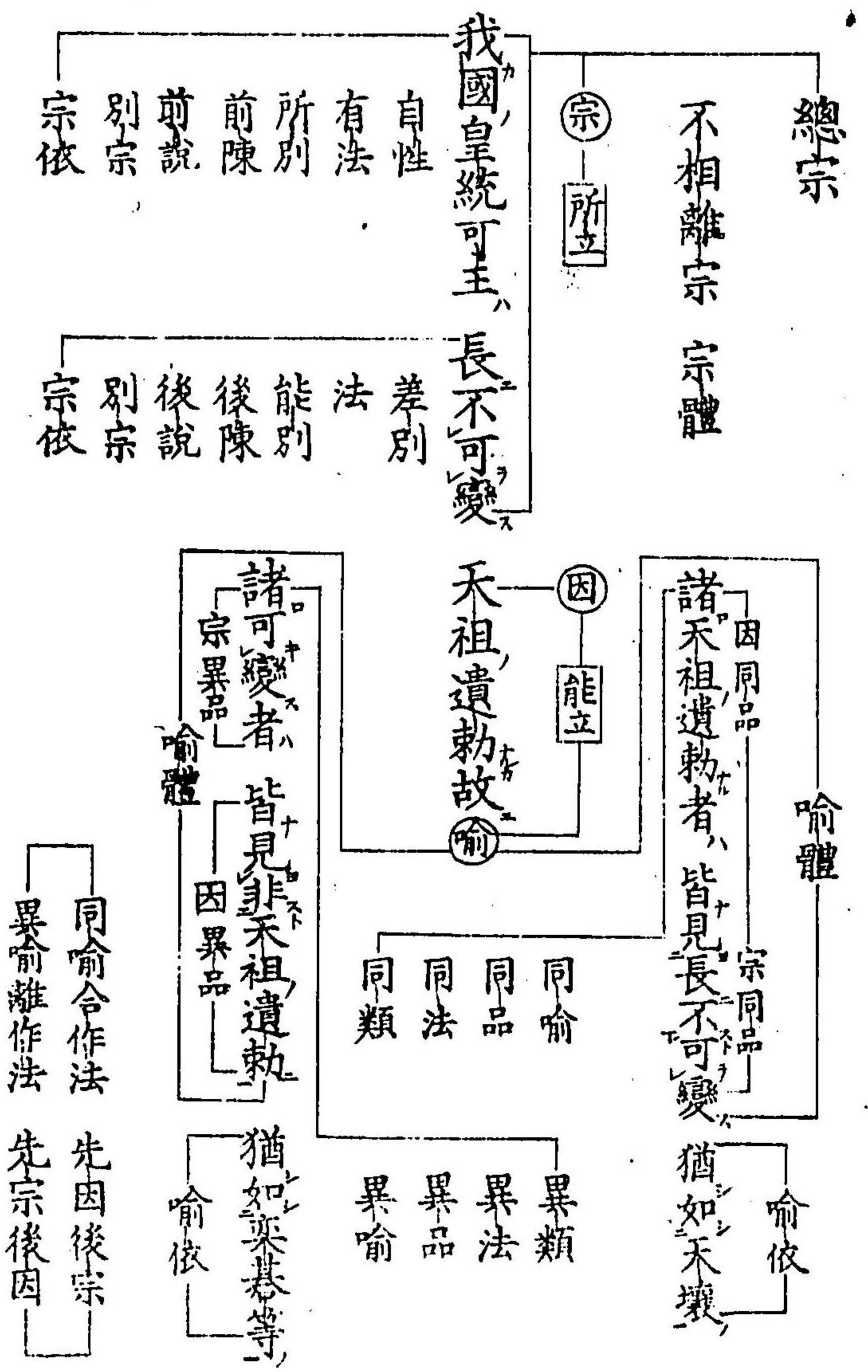
△圖減闕



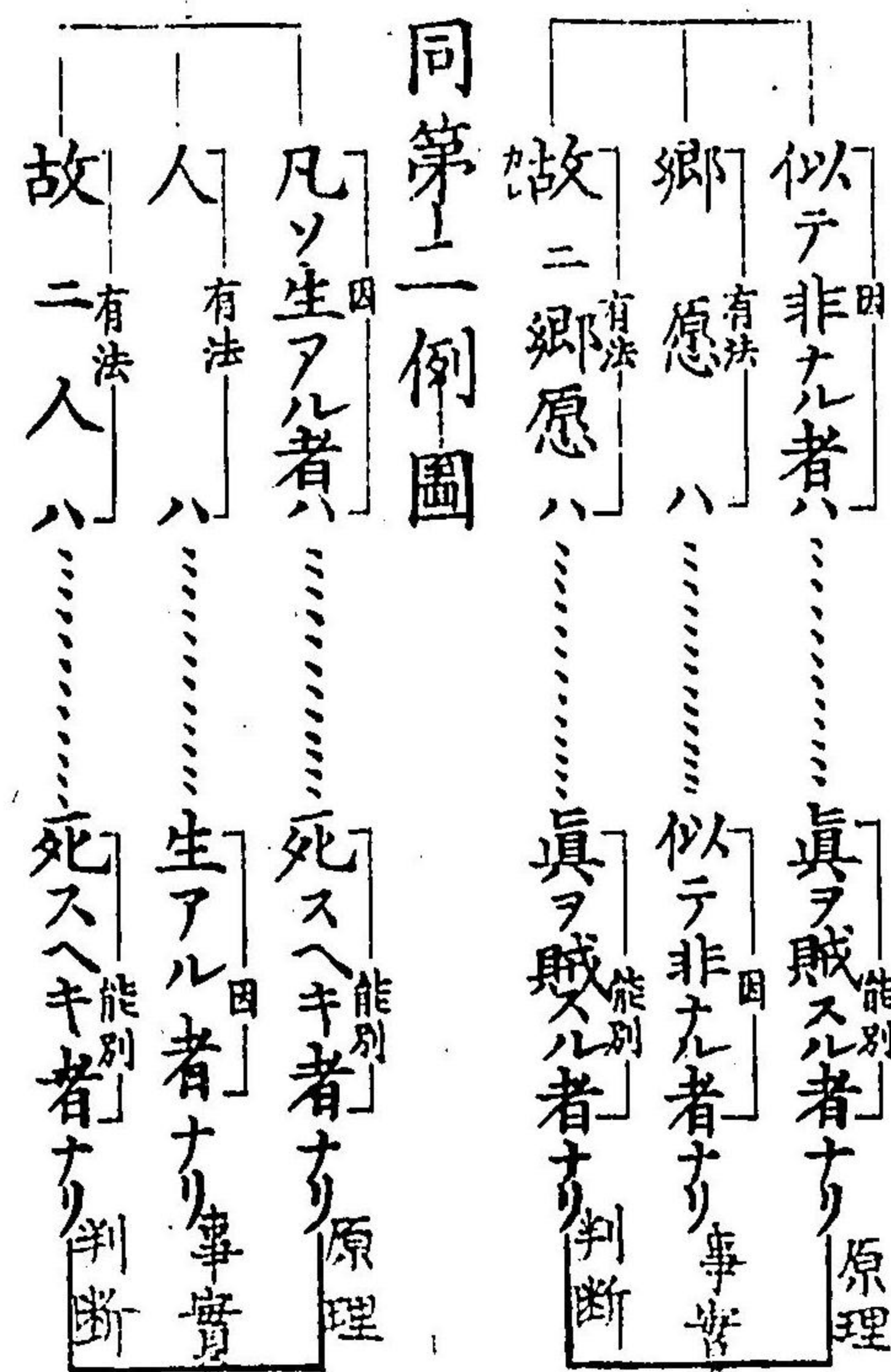
○瑜伽現比二智圖



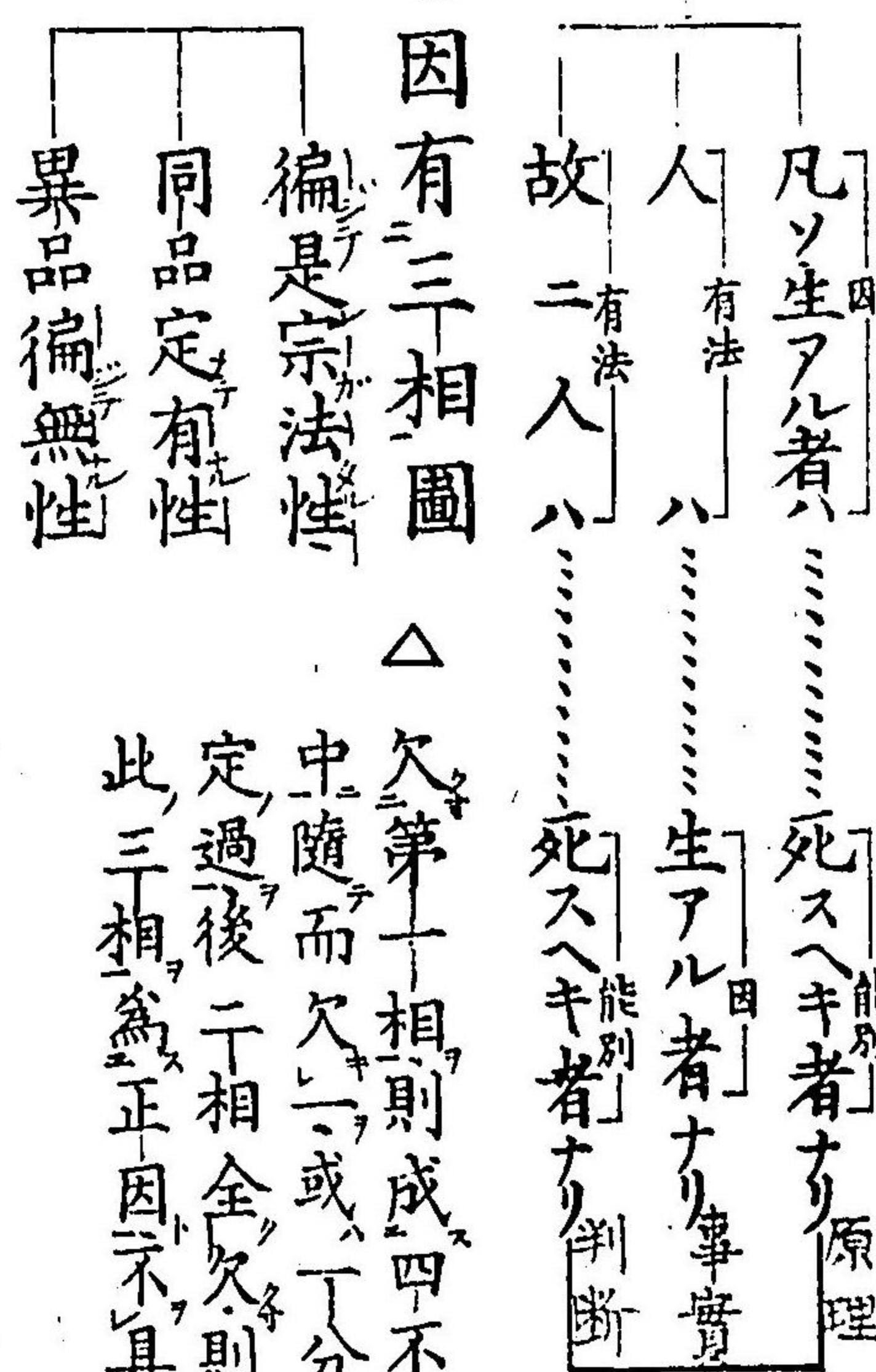
○宗因喻三支作法圖



○西洋論理術第一例圖



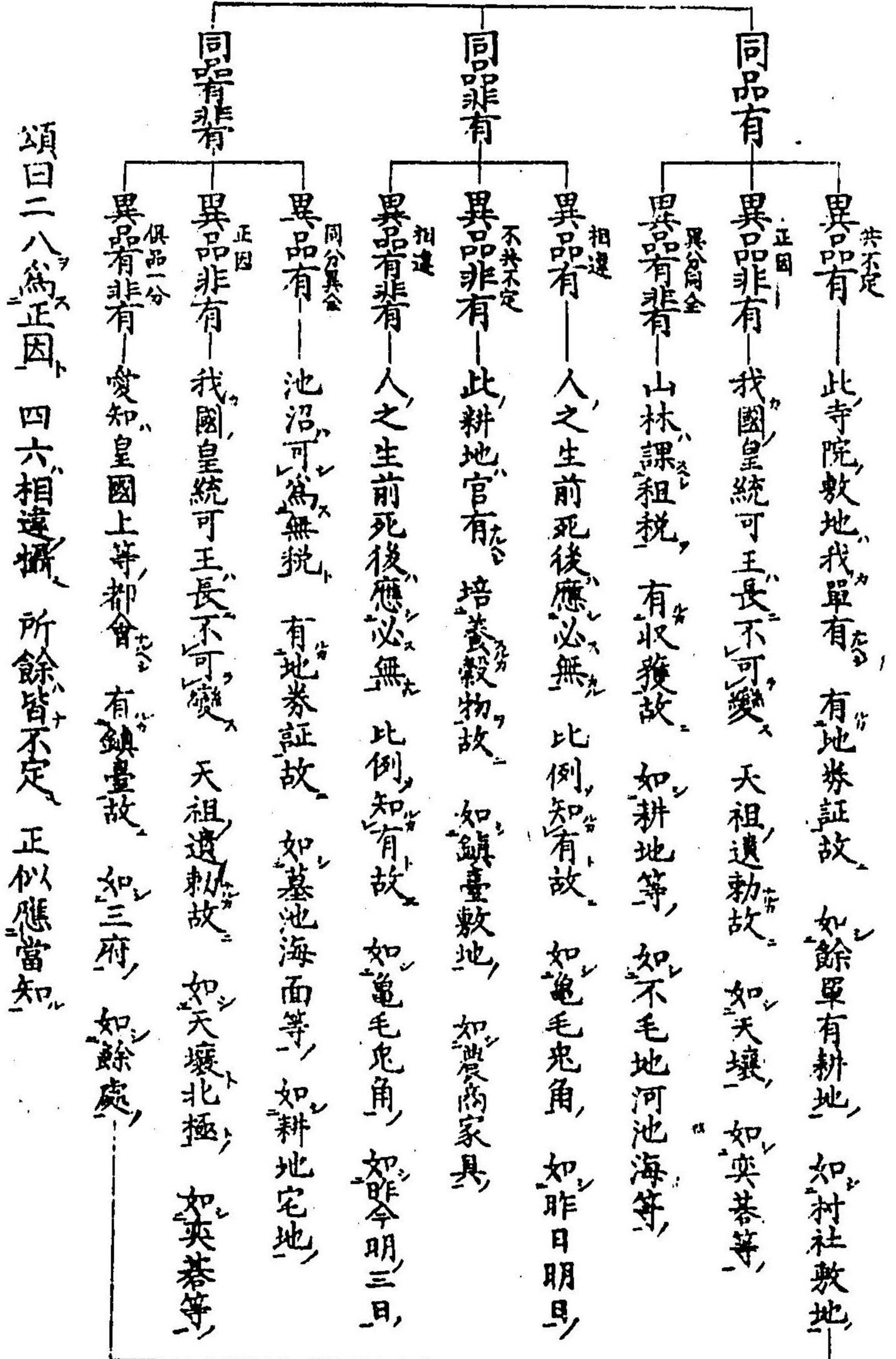
○同第一例圖



○因有三相圖

△欠第一相則成四不成過於後二相
中隨而欠一或一分或全分則成不
定過後二相全欠則成四相違過具
此三相為正因不具為似因也

○足目九句圖



頃曰二八為正因 四六相違攝 所餘皆不定 正似應當知

○似宗九過圖

- 一 現量相違
- 二 比量相違
- 三 自教相違
- 四 世間相違
- 五 自語相違
- 六 能別不極成
- 七 所別不極成
- 八 俱不極成
- 九 相符極成

△後四過天主所知也

○似因十四過圖

- 一 兩俱不成
- 二 隨一不成
- 三 猶豫不成
- 四 所依不成
- 五 共不定
- 六 不共不定
- 七 同品一分轉異品徧轉不定

四不成

○似喻十過圖

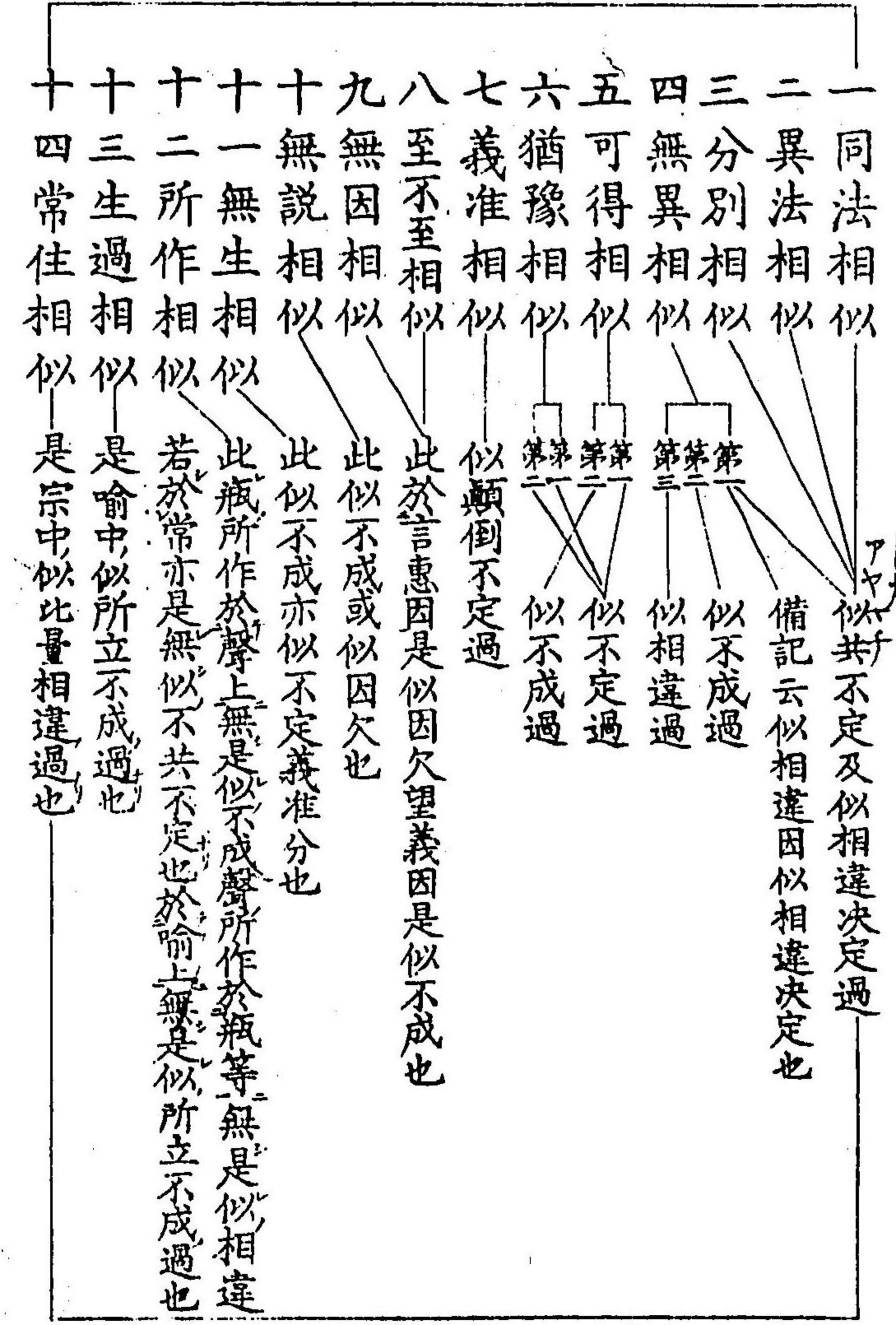
- 八 異品一分轉同品徧轉不定
- 九 俱品一分轉不定
- 十 相違決定
- 十一 法自相相違
- 十二 法差別相違
- 十三 有法自相相違
- 十四 有法差別相違

六不定

四相違

- 一 能立法不成
- 二 所立法不成
- 三 俱不成
- 四 無合
- 五 倒合
- 六 所立法不遣
- 七 能立法不遣
- 八 俱不遣
- 九 不離
- 十 倒離

○十四相似過類與三十三過對照圖



因明活眼卷之上

第十章 因明總論

三河 雲英晃耀 著



凡論理ノ要ハ論者ガ論壇ニ登リ違他順自シ
 已ガ持論ヲ貫徹スルニ在リ而モ持論ヲ貫徹
 欲スルニ方法アリ方法トハ何ゾヤ曰ク
 因明法トハ何ゾヤ曰ク印度ノ論

理術ニシテ所謂五明中ノ一明ナリ此ノ因明論
 理術ヲ用フルトキハ已ガ持論ニ條理無クバ已
 ナン苟モ條理有ラバ設ヒ政府裁判所稠人廣坐



ノ所ニ於テモ言論敦肅義氣勇猛ニシテ意ニ於
 テ畏レ言ニ於テ屈スル所口無ク條理明白言簡
 ニシテ義通シ語少クシテ意貫ク論理ニ於テ實
 ニ一太妙術ト謂ツベシ抑モ此ノ妙術ヲ因明ト
 名ヅクル所以ハ此ノ論理作法ニ於テ宗因喻ト
 三支ヲ分ツト雖モ唯ダ因ニノミ三相有リテ名
 義俱ニ該貫ナル故ニ宗明喻明ト名ヅケズシテ
 特ニ因ノ一支ヲ取リテ因明ト名ヅクルナリ又
 タ因明ノ名ヲ釋スルニ冠註上本四紙以下五義アリ其一義ハ明ハ
 五明ノ通名ニシテ因ハ五明ノ一名ナリ其二義

ハ因明ノ一字俱ニ五明ノ一名ナリ其ノ因ト云
 フ者ハ立論者ノ言ニシテ凡ソ論理ハ立言ニ非
 ザレバ以テ宗ヲ明顯スルコトナシ其ノ立者ノ
 言中ニ自ラ智義ノ二ヲ含蓄ス又夕明ハ敵證者
 ノ智ニシテ敵智ニ非ザレバ立論ノ旨趣ヲ了ズ
 ルコトナシ其ノ敵智ハモト立者ノ言義ヲ觀ジ
 テ起リシ智ナリ故ニ敵智ノ中ニ自ラ言義ヲ含
 蓄ス其三義ハ因ハ敵者ノ了宗智ヲ生ズル所ノ
 立者ノ言生因ニノミ局リテ自悟ノ智義ヲ含蓄
 スルコトヲ論ゼズ又夕明ハ敵者ノ了宗智ニノ

ミ苟リテ立者ノ言義ノ二ヲ敵者ヨリ觀ズルコ
 トヲ論ゼズ其四義ハ因ハ智了或ハ言生ナリ明
 ハ明顯ナリ此ノ因明ハ原ト佛經ノ名ナリ其五
 義ハ因明ニ三釋アリ一ハ陳那ノ本論ニハ本主
 ノ末論ニハ本末ニ論ニ通ズ此ノ如ク五義アレ
 ドモ第一義ヲ以テ最モ該貫ト区又夕此ノ因明
 ニ就キテ第十五卷瑜師地論ニ論體論處所論據論莊嚴
 論負論出離論多所作法ノ七因明ヲ説ク一ニ論
 體トハ論ノ體性ニシテ因明ハ言ハ究理ナレバ
 言ヲ體トス依テ言ハ立テ方が至要ナリ苟モ言

ハ立テ方が惡キトキハ設ヒ持論ニ條理ハ有リ
 テモ論場ニ於テ負ケヲ取ルニニ論處所トハ王
 家執理家多人ノ中或ハ賢哲者ノ前或ハ善ク條
 理ヲ解スル者ノ前或ハ條理ヲ樂フ者ノ前等總
 シテ論場ヲ指ス木疏ニハ之ヲ束子テ王家證義
 者等ト云フ此ノ六處ニハ皆ナ證義ノ者アルベ
 シ若シ證義ノ者ナクシテ論バルトキハ互ニ水
 掛ケ論トナリテ法ノ正理ヲ顯スコト能ハズ故
 ニ議論ニハ確乎タル場處ヲ定メ證義者ハ參坐
 即チ聞キ役ヲ立テ子バナラヌニニ論據トハ據

トハ依ノ義ナリ故ニ本疏ニハ論所依ト云フ依
ル所ナリ只口ニ任セテ論ジテハ徒ニ車夫ノ論
ノ如クナル故ニ自性差別宗因喻現量比量聖教
量等ヲ所依トシテ論ズコレハ真能立等ニ當ル
四ニ論莊嚴トハ即チ真能破ノコトナリ莊嚴ト
ハカガリノコトニシテ奇麗ニ能破スルコトナ
リ高シテ其ノ法ニ五目ヲ分ツ其下目ハ善自他
宗所破明ナラザレバ能破立セズ敵者ノ宗ニ暗
クシテハ能破ノ手元ニ過失ヲ生ズ又夕自ノ宗
義ニ暗キトキハ違教等ノ失アリテ真能破ニナ

ラズ依テ自他ノ宗ヲ善ク明ムベキナリ其二目
ハ言具圓滿ナリコノ中文夕五支ヲ分ツ其下支
ハ不鄙トテ田舎ノ方言等ノ麤鄙ナル言ヲ用ヒ
ズ正キ音ヲ以テ破ス其二支ハ輕易トテ聞工易
キ世間通用ノ言ヲ用フ其三支ハ雄朗トテ雄豪
明朗ノ言ヲ用フ其四支ハ相應トテ前後相違セ
ヌヤウ能ク法義ニ契ヒテ我が所立ノ義ヲ失ハ
ヌヤウニ申シ陳ブルナリ其五支ハ義善トテ申
シ出ス言ハ顛倒セヌヤウニ論ズ此ノ五支ヲ具
スルヲ言具圓滿ト云フ其三目ハ無畏ナリ若シ

意ニ畏レ懼ル、コトアリテ、兩腋ニ汗ヲ浸シ赤
面抔スルトキハ、語音弱ク聞エテ、敵者ヲ屈伏セ
シムルコト能ハズ、依テ畏レ氣ナク破スルヲ、無
畏トズ、其四目ハ、敦肅ナリ、敦ハヲサムルト訓ジ
肅ハツハシムト訓ズ、太緩太速ナラザルヤウ、時
ヲ待テ言ヲ發スルヲ、云フオクレテ言ヲ發ス
ルハ、敵者ニ云ヒ伏セラレタルヤウニ聞エテ惡
ク、又夕敵者ノ未ダ云ヒ終ラザルニ、セキコンデ
言ヲ發スレバ、其ノ破スル所、却テ敵者ノ主義
ニ切中セザルコトアリ、其五目ハ、應供ナリ、凡ソ

敵者ヲ破スルハ、タゞ正義ヲ顯ス爲ナレバ、論ヲ
無理ニ強ヒズ、敵者ノ意ニ隨ヒテ言ヲ起シ、善友
ト話スガ如ク、溫柔ニ破スルコトナリ、然ラザレ
バ、敵者ノ心忿怒シテ却テ正義ヲ通ジガタシ、以
上ハ、則チ真能破法ハ、五目ナリ、五ニ論負トハ、論
ニ負クルコトナリ、是ニ三支アリ、其一、支ハ捨言
ナリ、若シ敵者ノ能破スル所、只理ニ於テ至當ナ
ルトキハ、立者言ヲ捨テ、復タ説カザルヲ云フ
其二、支ハ、言屈ナリ、若シ立者ノ能立ニ過アリテ
敵者乃チ真能破ヲ以テ之ヲ破シ、立者其ノ能破

ニ云ヒ詰メラレテ黙退屈伏スルヲ云フ其三支
ハ言過ナリ言論雜亂シテ條理貫徹セザル等ヲ
云フ是レ論負ノ三支ナリ六ニ論出離トハ考察
シテ失敗ヲ出離スルコトナリ是レ又夕三支ア
リ其一支ニ考察得失是ハ將ニ論ゼントスルニ
我が持論ノ得ト失トヲ考察シテ得ナレハ言ヲ
發スベキナリ其ニ支ニ考察時衆是ハ論者論場
ニ臨ミ先ヅ意中ニ於テ列スル所ノ木衆ヲ通測
シ悉ク公明正當ノ者ナルヤモシクハ頑固僻執
ノ者アリヤナキヤヲ考察シ若シ頑固僻執ノ者

アラバ論ヲ發セズ其ニ支ニ考察能クハ是ハ
已レ此ノ論說ニ於テ能力否カラ熟考シ若シ已
ガカノ耐フベキ見込アラバ論ヲ發スルナリ是
レ論出離ノ三支ナリ七ニ論多所作法トハ能ク
自他ノ宗義ヲ融貫シ勇猛ニシテ畏レ無ク辯才
竭クルコト無キ論ノ作法ヲ云フ然ルニ彼我對
論ハトキハ必ズ立者敵者證者ハ三人アルヲ法
トス猶ホ官ノ裁判ニ原告被告判事ノ三人アル
ガ如シ若シ立者敵者ノミニテ證者ナキトキハ
或ハ贅論ニ涉リ或ハ我意ヲ主張シ或ハ非理ヲ

執拗スル等ノトキ抑制スルコト能ハザルニ至ル故ニ證者アリテ能ク是非ヲ定メ邪正ヲ證ス是レ因明論理場ノ法則ナリ然ルニ世間ノ學者此ノ因明論理ノ妙術ヲ以テ唯佛道ノ論議道具ト思ヒ之ヲ外物視シテ他事ニ通用スベキヲ知ラズ佛學者モ亦夕固有ノ舊量ヲ苦解スル分際ニ止マリテ之ヲ新量ニ活用シテ世間論理ノ本益ト爲スコトヲ知ラズ之ニ由テ今マ報國護法ノ赤心ヨリ因明ヲ世間ニ活用弘通シ幾分ノ利益ヲ施シ遂ニ文明ノ太教憲ヲモ羽翼セント欲

ス是レ晃耀ガ嘗テ詩ヲ賦シ要説ト因明ト供ト活用ト豈將ト妙術ト付ト唐損トノ句アル所以ニシテ今マ復タ此ノ書ノ著アル所以ナリ覽者幸ニ其ノ拙劣ヲ咎メズ其ノ微衷ヲ亮セヨ

第二章 因明沿革

因明論理ハ原ト過去佛ノ説ナリ天地草昧ノトキ足目仙人之ヲ承ケ初メテ九句因等ヲ製ス爾來生顯ニ論師數勝ニ外道等各自ニ此ノ方法ヲ以テ己ノ宗義ヲ主張セリ釋迦文佛出世已來持ニ此ノ軌法ヲ用ヒテ外道ヲ摧伏シ正道ヲ保全

セラレシコト、諸經ニ散見セリ次ニ彌勒居士之
ヲ瑜伽師地論ニ承ケ次ニ無着論師之ヲ顯揚對
法ノ二論ニ傳フ次ニ世親論師ハ其ノ師タル如
意論師ガ外道ト論議シテ負ケタルヲ遺恨トシ
舌ヲ嚙ミ切テ死ナレシヲ以テ自ラ奮發シテ別
ニ論軌論式論心ヲ製シ其ノ方法ヲ詳敷ニセラ
ルト雖モ惜哉其ハ書傳ラズ然レドモ軌式尚ホ
未ダ完全ナラザル所アリト云フ既ニシテ陳那
論師出ヅ其ハ名ヲ木城龍ト譯ス議論ノ達者ナ
ルコト五印度中向フ所口敵ナク勢ヒ木龍ノ如

陳那論師

古因明
新因明

天主論師

シ因テ名ヅク此ノ論師ガ因明平理門論下卷ヲ
造シ頹綱ヲ振擧シ童子テ規矩ヲ成シ三支ハ軌
法ヲ定ム真似ハ破立ヲ分明ニセシヨリ因明ハ
作法初メテ備レリ依テ世親已前ヲ古因明ト云
ヒ陳那已後ヲ新因明ト云フ聲無常ノ下量ヲ以
テ生顯ノ聲常ヲ粉碎シ眼等為他用勝ノ下量ヲ
以テ數論ノ神我ヲ破斥シ且ツ有性非有性ノ下
量ヲ以テ勝論ノ離實有性ヲ隨負セシムルコト
猶ホ鍊棒ヲ以テ蟻塚ヲ潰スガ如ク汽車ヲ以テ
螳臂ニ當ルガ如シ次ニ天主論師出ヅ陳那論師

三量
二因
八門
兩益

因明論 卷之十一
二事ハテ三量自他 二因引生ヲ究盡シ八門能立能破似能
立似能破、現量比量似現量似比量 兩益自悟悟他ヲ啓通シ以テ因明入
正理論一巻ヲ製匠爰ニ支那ニ於テハ唐ノ太宗
ノ世三藏玄奘論師出テ求法ノ志篤ク遂ニ貞觀
三年ヲ以テ奮發西遊ス固ヨリ今日ノ如キ汽車
モ火船モ無キ時ユエ千中無一歸トモ號スル流
沙葱嶺ノ難處ヲ越エ不可言ノ艱苦ヲ嘗メ始メ
テ能ク印度ニ達スルコトヲ得タリ凡ソ在竺十
七年ニシテ貞觀十九年ニ至リテ歸唐ス其ノ求
法ノ日初ノ北印度ノ衆稱論師ニ逢ヒテ因明ヲ

授カリ後ニ中印度ノ戒賢論師ニ事ヘ更ニ奧義
ヲ討究ス歸唐ノ後三十徒弟中ニ於テ獨リ上足
ノ慈恩論師ニ此ノ法ヲ授ク慈恩論師謹デ三藏
相傳ヲ承ケ不正理論疏六卷等ヲ製ス次ニ淄州
論師出テ義斷一巻纂要一巻ヲ製シ次ニ智周論
師出テ前記後記六卷ヲ撰ス凡ソ此等ノ書籍幸
ニ今マ皇國ニ現在セリサテ此ノ因明法ハ皇國
ニ流傳スル所以ニ於テ凡ソ四傳アリ一ハ人王
三十七世孝德帝白雉四年癸丑即チ今明治十六
年ヲ距ルコト一千二百二十一年前元興寺道昭

因明論 卷之十一 九

論師入唐シテ玄奘三藏ニ面シ慈恩論師ト同學
スニハ人王三十八世齊明帝四年戊午智通智達
ノ二論師入唐シテ正ク玄奘三藏ニ承ケ傍ニ慈
恩論師ニ稟ク是ハ道昭論師入唐ヨリ六年後ナ
リ三ハ人王四十二世文武帝太寶二年癸卯智鳳
智鸞智雄ノ三論師勅ヲ受ケテ入唐シ智周論師
ニ會フテ傳フ是レ道昭論師入唐ヨリ五十二年
後ナリ四ハ人王四十四世元正帝靈龜二年丙辰
興福寺元昉論師入唐シテ同ク智周論師ニ承ク道
昭入唐ヨリ六十四年後ナリ已上ノ四傳自ラ分

レテ南北ハ二傳トナル第十傳ノ元興寺道昭論
師ノ派ヲ南寺傳ト云フ第四傳ノ興福寺元昉論
師ノ派ヲ北寺傳ト云フ中間ニ傳ノ中智通智達
ニ論師ノ傳ハ南寺ニ合派シ智鳳智鸞智雄三論
師ノ傳ハ後ニ傳テ已傳ヘ聞ク人王六十世醍醐
帝延喜ノ頃主上モ因明ヲ好ミ給ヘバ殿中ノ論
筵ニ互ニ因明ノ規則ニテ論議ヲセシコトアリ
トカスレバ慈惠木師ノ時今ニハ因明本流行ニ
テ慧心僧都ハ俱舍因明ハ此ノ土ニ究ムト申サ
レシ程ニテ各宗ニ名高キ因明者ナリ宇治左木

臣頼長公モ因明ハ達人ナル故ニ南寺相承ニ載
ス又夕聞ク輒近聽訟ニ名高キ大岡越前守モ此
ハ法ヲ學ビテ裁判ヲナス依テ其ハ裁判明決一
モ理ニ契ハザルハナシト意フニ亦夕因明活用
ハ實効ナリ近來各宗ニ於テ長老碩徳日ヲ追フ
テ此ハ學ヲ講究セラレ加フルニ會議ハ盛ナル
時勢ナレバ數年ヲ經ズシテ此ハ學大ニ流行ス
ルニ至ラン歟是レ我が豫期企望スル所ナリ

第三章 能立能破

因明論理ニ於テ真能立似能立真能破似能破ト

樂

云フコトアリ真能立トハ宗因喩ハ三支無過圓
滿ナルヲ用ヒテ樂為ハ宗義ヲ立テヌクヲ云フ
是ニ新古因明ノ區別アリテ古因明ニハ第十章
ニ示ス瑜伽論ハ能立中第三論所依中ニ於テ自
性差別ハ二ヲ所立トシ宗因喩現比教ノ三支三
量ヲ能立トス新因明ニテハ宗ハ一ヲ所立トシ
テ因喩ハ二ヲ能立トシ且ツ現比ノ二ハ立具ト
シテ正キ能立ト名ツケズ是レ因明ニ於テ古今
同異ノ下木義門ナリ其ノ詳ナルハ此ノ書ニ盡
スベキニ非ズ又夕立宗ノ法ニ木畧二種アリ其

一ヲ唯遮無表ト云フ譬へバ我ハ無ナリト云ハ
シガ如キハタゞ我ヲ遮セント欲シテ別ニ無ヲ
立テズ此ノトキハ喻モ亦タ唯遮ニシテ表ヲ取
ラズ其ニヲ亦遮亦表ト云フ譬へバ我ハ常ナリ
ト説クガ如キハ唯ダ無常ヲ遮スルノミナラズ
亦タ常體アルコトヲ表ス此ノトキハ喻モ亦タ
遮表アリト云フガ法ナリ又タ因明ハ法ニ有無
ト云フコトアリ若シ無ヲ以テ宗トスレバ有ハ
能成ニ非ザルガ故ニ因モ同喻モ皆ナ亦タ無ヲ
出スベシ能ヲ出スベカヲ而ルニ若シ有ヲ出

此文休異喻ヲ用ニ
ル意均シ

ストキハ因ニ所依ナク、喻ニ所立ナキコトニナ
リテ因喻ヲ成サズ但シ有ハ無ニ異ナルガ故ニ
果喻ニ至リテハ有ヲ出シテ可ナリ又タ若シ有
ヲ以テ宗トスレバ有ハ能成ナレバ因モ同喻モ
皆ナ亦タ有ヲ出スベシ無ヲ出スベカラズ而ル
ニ若シ無ヲ出ストキハ因ハ能成ニ非ズ、喻ニ所
立ナキコトニナリテ亦タ因喻ヲ成サズ但シ果
喻ハ唯ダ止濫ヲ主トスル故ニ有無並用フルコ
トヲ得ルナリ又タ有法ニ就キテ論ズレバ無ノ
因ノ依ノ有法ハ有無ニ兩通ス有ノ因ノ依ノ有

法ハ唯ダ有ノミニ關ス有ノ因ノ依ノ有法ノ無ナルハ依ル所ナキ故ニ其ノ因立セズ所依不成ハ過アリト云フガ定規ナリ然ルニ此ノ有無ノ義ニ至テハ先德ノ異說ニシテ概論スベカラズト雖モ因明真能立ハ本例ナレバ之ヲ領會セザル可テ因次ニ似能立トハ宗因喻ノ三支ニ過アリテ已ガ持論ヲ立テヌクコト能ハズ其ノ大者ヲ擧グレバ宗ニ九過アリ因ニ十四過アリ喻ニ十過アリ合シテ三十三過トナル就中二十九過ハ陳那ハ立ツル所ニシテ餘ノ四過ハ天主ハ増

宗九過
因十四過
喻十過
合三十三過

有體闕
少相闕
義少闕
無體闕

加スル所ナリ又タ欠減過ト云フコトアリ是ニ有體闕無體闕ノニアリ有體闕トハ因明ハ言ヲ體トス宗因喻三支ハ言體ハアレドモ闕過アルヲ云フ其ノ中ニ少相闕義少闕ノニアリ少トハ闕ノ義ナリ少相闕トハ因ノ言支ハ闕ケザレドモ三相ノ義ヲ闕クヲ云フ之ヲ三十三過ニ對映スレバ因ノ過ニ當ル義少闕トハ因喻ノ言支ハアレドモ過アリテ因喻ノ義ヲ闕クヲ云フ三十三過ニ對映スレバ因ノ十四過ト喻ノ十過トニ當ル次ニ無體闕トハ或ハ宗ハシアリテ因ト喻

トハ闕ケテ無ク或ハ宗ト因トアリテ喻ハミ闕
ケテナキヲ云フ西洋ロジック次ニ真能破トハ他
ノ持論ヲ破シ遂グルヲ云フ此ハ真能破ハ為ニ
所破トナル者ハ似能立ハ三十三過ナリサテ其
ノ破法ニ顯過破トハ立量破トハ二アリ顯過破ハ
或ハ立量シ或ハ立量セズシテ立者ノ量ニ過ア
ルヲ顯ハシテ之ヲ破スルヲ云フ立量破ハ必ズ
立量シテ破スルヲ云フ三十三過ヲ分別スレバ
比量相違ト違決ト四相違トハ六過ハ能違ノ量
アルガ故ニ立量破ニ當リ餘ノ二十七過ハ唯ダ

顯過破ニ當ル故ニ立量破ハ必ズ顯過破ニ歸シ
顯過破ハ必ズシモ立量破ヲ要セザルガ規矩ナ
リ次ニ似能破トハ立者ハ量ハ無過圓滿ハ真量
ナルニ破者ヨリ強ヒテ其ハ過ヲ求メテ破ス可
カテガレヲ破スルヲ云フ由テ此ノ似能破ノ為
ニ正對トナルハ真能立ナリ是ノ似能破モ小過
無數ナレドモ本過ヲ舉グレバ十四相似過類ト
ナル此ノ十四相似過類ハ過相幽遠ナレバ古來
因明家ト稱スル中ニ之ヲ剖釋スル者ハ幾人モ
ナキコトナリキ

第四章 現比二智

智ニ二種アリ。曰ク現量智。白ク比量智ナリ。現量智トハ眼ニ色ヲ見テ色ト知リ耳ニ聲ヲ聞キテ聲ト知ル等見聞ニ隨ヒテ發スル智覺ヲ云フ。比量智トハ一ヲ知リテニハ然ルヲ比渡シ此ヲ知リテ彼ニ比例スル類ヲ云フ。蓋シ量トハ量度ノ義ニシテ智ノ用ナリ。サテ瑜伽師地論ニ現量ニ就キテ三種ハ區別ヲ立テ一ハ非不現見ニハ非已思應思ニハ非錯亂境界ト為シ第一ノ非不現見ノ下ニ於テ相似生ト超越生ト無障礙ト非

極遠トノ四故ヲ開キ第三故ノ下ニ於テ復タ非

覆障所礙黒闇ト非隱障所礙神通ト非映障所礙

日光映奪星月又月光映奪衆星等ト非惑障所礙目眩顛狂等トノ四種

ヲ開キ第四故ノ下ニ於テ一ニ處極遠ニニ時極

遠ニニ損減極遠ノ三種ヲ開キ此ノ總別九種ニ

非ルヲ第一ノ非不現見ノ現量ト云フ第二ニ非

已思應思トハ良醫ノ藥ヲ病者ニ與フル病苦未

ダ愈エガルガ如キヲ應思ト為シ其ノ病苦已テ

ニ愈エルガ如キヲ已思ト為ス應トハ將來ヲ顯

示ス已トハ過去ヲ示ス此ハ已思應思ニ非ザルヲ

第一ノ現量ト為ス第三ニ非錯亂境界トハ是ニ
 五種アリ一ヲ想錯亂トス鹿ノ熱渴シテ加暢談ニ
 於テ水想ヲ起スガ如キヲ云フ二ヲ數錯亂トス
 少數ニ於テ多數ヲ起スガ如ク或ハ翳眼者下月
 輪ハ所ニ於テ二月輪ノ像ヲ見ルガ如キヲ云フ
 三ヲ形錯亂トス旋火ヲ見テ輪形トスルガ如キ
 ヲ云フ四ヲ顯錯亂トス黃疸者非黃ハ物ヲ見テ
 黃色トスルガ如キヲ云フ五ヲ業錯亂トス無業
 ハ物ヲ見テ有業トナスヲ云フ譬ヘバ山影水ニ
 在ルトキ其ハ水ヲ汲ミテ山ハ動クヲ疑ヒ巴レ

舟ニ坐スルトキ其ハ舟ハ行クヲ覺エズシテ兩
 岸ハ走ルヲ疑フガ如キヲ云フ此ハ五種錯亂ハ
 境界ニ非ザルヲ第三ノ現量ト為スト云フ如是
 ノ現量ニ畧ボ四種ノ所有アリ一ヲ色根現量ト
 ス五色根所行ノ境界ナリ二ヲ意受現量トス諸
 ノ意根所行ノ境界ナリ三ヲ世間現量トス前二
 種ヲ總ジテ下世間現量ト名ヅク四ヲ清淨現量
 トス世間現量ニ非ザル出世ノ智ガ所行ノ境ニ
 於テ有ヲ知リテ有トシ無ヲ知リテ無トスル等
 ナリ次ニ比量ニ就キテ五種ノ區別ヲ立ツ一ハ

相比量二ハ體比量三ハ業比量四ハ法比量五ハ
 因果比量ナリ相比量トハ烟ヲ見ルニ由テ相比
 量シテ火アリト知リ角ヲ見ルニ由テ相比量シ
 テ牛有リト知ル等ノ如シ體比量トハ或ハ現在
 ヲ以テ過去ニ比類シ或ハ過去ヲ以テ未來ニ比
 類シ或ハ現在ヲ以テ未來ニ比類スル等ノ如シ
 業比量トハ遠處ニ在リテ動作スル者ヲ望見シ
 テ人ナリト比知シ動作セザル者ヲ望見シテ是
 レ人ニ非ズシテ杭ノ類ナリト比知シ身ヲ曳キ
 テ行クヲ見テ是レ蛇ナリト比知スル等ノ如シ

法比量トハ盛アルヲ見テ必ス衰アルヲ比知シ
 會アルヲ以テ必ズ離アルヲ比知シ生アルヲ以
 テ必ズ死アルヲ比知スル等ノ如シ因果比量ト
 ハ因ヲ以テ果ヲ比知シ果ヲ以テ因ヲ比知スル
 ヲ云フ譬ヘバ法ノ如ク王ニ事フル人ヲ見テ其
 ノ人必ズ廣大ノ祿位ヲ獲ベシト比知シ廣大ノ
 祿位ヲ獲タル人ヲ見テハ其ノ人先キニ已ニ法
 ノ如ク王ニ事ヘシコトヲ比知シ或ハ食量平等
 ナラザル人ヲ見テハ其ノ人後ニ當ニ病アルベ
 キヲ比知シ現ニ病アル人ヲ見テハ其ノ人先キ

ニ食量平等ナラザリシヲ比知スルノ類ニシテ
凡テ現在ノ果ヲ見テ過去ノ因ヲ比知シ現在ノ
因ヲ見テ未来ノ果ヲ比知スル等ヲ云フ以上乃
テ比量ノ五種ナリ又タ同ヲ以テ比スルアリ異
ヲ以テ比スルアリ同ヲ以テ比スルハ先キニ示
ス煙ヲ見テ火アリト比知スル等ノ如シ異ヲ以
テ比スルトハ電ヲ見ルトキハ禾稼ヲ損ズルヲ
比知シ現ニ禾稼ノ損ズルヲ見テハ已ニ風電アリ
リシヲ比知スルガ如シ又タ此ノ比量智ニ立者
ノ比量智ト敵者ノ比量智トアリ立者比量智中

ニ冠註中本二十五紙出自比量他比量ノニアリ自比量中ニ相比量言

比量ノニアリ相比量トハ前ニ示スガ如シ言比
量トハ他人ノ言ヲ聞キテ自ラ比度シテ知ルヲ
云フ此ノニツノ者ヲ合セテ自比量トス他比量
トハ他ノ為ニ比量ノ言ヲ安立シテ解ヲ發セ令
ルヲ云フ總ジテ比量ノ言ヲ安立セント欲セバ
先ヅ他ノ敵ノ所立ヲ審察スベシ所破明ナラガ
レハ能破何ゾ立セン他ノ所立ヲ審察シテ若シ
自ノ持論ト合符スルトキハ更ニ論ズルニ及バ
ズ唯ダ自他ノ持論互ニ相ヒ乖戾スル故ニ比量

ハ言ヲ用ヒ三支作法シテ他ハ不共許ヲシテ共
許セシムルナリ依テ常言ハ因明ハ此ハ他比量
ハ下邊ヲ取ル次ニ敵者比量智中ニ立者ノ現量
ヨリ生ズル比量智ト立者ノ比量ヨリ生ズル比
量智トノ二種アリ先ヅ立者ノ現量ヨリ生ズル
比量智トハ立者ガ現量智ヲ以テ烟ヲ見テ立量
シテ云ク彼處應有火宗現烟故_因此ノ現烟ノ因
三相具足セルヲ以テ敵證者ガ此ノ因ヲ念ジテ
彼ノ處ニ必ズ火有リトスル審觀察ノ正比量智
ガ起ル等ヲ云フ次ニ立者ノ比量ヨリ生ズル比

量智トハ立者ガ比量智ヲ以テ聲ハ所作エ工瓶
等ノ如ク無常ナルベシト思ヒ定メ聲應無常宗
所作性故_因ノ量ヲ立ツ此ノ所作ノ因ハ三相具
足セルヲ以テ敵證者ガ此ノ因ヲ念ジテ聲ハ必
ズ無常ナリトスル正比量智ガ起ル等ヲ云フ然
レバ立者ノ現比ニ量ガ因トナリテ敵者ノ念ガ
起リ敵者ノ念ガ因トナリテ其ノ正比量智ガ起
ル是ニ下重ノ因果アリ下重ハ立者ノ現比ニ量
ガ因トナリテ敵者ノ念因ガ果トナル下重ハ敵
者ノ念因ガ因トナリテ其ノ正比量智ガ果トナ

ル是ヲ遠近ニ因ヲ分チ以テ敵者ノ了宗智ノ果
ニ對スレバ念因ハ近因ナリ立者ノ現比ニ量ハ
遠因ナリ是ヲ遠近ニ果ヲ分チ以テ立者ノ現比
ニ智ノ因ニ對スレバ敵者ノ念因ハ近果ニシテ
其ノ正比量智ハ遠果トナル然レバ立量ノ順序
ハ立者ノ現比ニ智ヨリニ支立量ノ言ヲ陳ズ是
ヲ言生因ト云ヒ此ノ立者ノ言生因ニ由テ敵者
ノ正比量智が起ル是ヲ智了因ト云フ已上ハ真
現真比ニ就キテ論ズ、似現似比ハ反對シテ知ル
ベシ、

第五章 三支作法

因明ノ作法ハ宗因喻ノ三支ヲ以テ成立ス、宗ト
ハ所尊、所崇、所主、所立ノ義ニシテ、論場ニ臨ミ、已
ガ論旨ヲ敬重尊崇シテ、陳明シ、或ハ意中ニ已ガ
主義ノ所立ヲ樂為スルヲ名ヅク、因トハ所由、所
以、建立、順益ノ四義ニシテ、已ガ持論ノ公平ナル
理由ヲ證スル者ヲ云フ、故ニ、縦ヒ宗ヲ舉グルモ
其ノ公平ノ理由ヲ示サミレバ不共許ノ敵者ヲ
シテ共許セシムルコト能ハズ、依テ論述スル者
必ズ宗ノ次ニ因ヲ舉グルヲ例トス、因ヲ具サニ

釋然タラバ喩ハ説カズトモ亦タ可ナリ。因明家ノ前哲中ニ此ノ三支外ニ別ニ敵者ノ所立ヲ審察スル審察支ト云フ。下項ヲ立テラレタレドモ新因明ニテハ別ニ下支トハ立テズ。何ニトナレバ敵者ノ所立ヲ審察スベキコトハ論議ニ於テハ無論ノコトナレバナリ。若シ他ノ所立ヲ審察セ子バ立量ハナラヌ故ニ必ズ三支外ニ審察支ヲ別立ストナラバ例スルニ父母アリテ始メテ能ク立論スベキ子ヲ生ズル故ニ父母支ト云フ。下支モ亦タ別立スベキコトニナリテ終ニ立支

無窮ノ難ヲ生醸ス。是レ新因明ニ於テ審察支ヲ別立セザル所以ナリ。サテ又々支ト云フハ支分支別ノ義ニシテ、下事ヲ成リ立ツルニ宗因喩ノ三別アルユエ、三支ト云フ、此ノ三支ヲ能立所立ヲ以テ分別セバ第三章ニ示スガ如ク新因明ニテハ宗ノ一ヲ所立トシ、因喩ノ二ヲ能立トスル所立ノ所々原告被告ト云フ被ノ義ニシテ、アルト義訓スル宗ハ一ハ因喩ハ二ヨリ成立セラル、モハ故ニ所立ト云ビ、因喩ハ二ハ能ク宗ヲ成立スルモハ故ニ能立ト云フ。古來此ノ宗因喩

三支作法ノ立量ヲ示スニ多ク聲無常九三宗所作性九三故因猶如瓶等、同喻猶如虛空、異喻ト云フ比例法ヲ以テ識知セシムルコトナリ、此ノ作法ハ無過圓滿ハ真量ニシテ我輩固ヨリ聞然スベカラザレドモ數千年前印度國ニアリテ佛者が聲生論師ニ對シテ聲ノ常カ無常カヲ論定スル舊量ナレバ、明治聖世ノ活因明ニハ非ズ、故ニ今マ且ク之ヲ閣ク

然ルニ近頃本邦言路洞開ノ盛時ニ乘ジ或ハ好ミテ政ヲ議シ律ヲ論シ甚キニ至リテハ其身

皇國ニ生レ乍ラ掛ケ卷モ畏コキ萬國無比ノ御國體アルヲ忘レ動モスレバ彼ノ合衆國ノ共和ノ政治ヲ艷稱スルモノ世間未ダ必ズシモ其人ナカラズトス、忌ミ憚リナキノ甚キ者ト云フベシ、予之ガ為メニ積年杞憂ヲ抱ク故ニ今マ立スル所ノ本量ハ三支作法ニ於テ無過圓滿ニハ非ガルベケレドモ且ク日本紀所載ノ皇太神ガ御孫瓊杵ノ尊ニ勅シ給ヒシ、瑞穗國是我子孫可王之地也、宜爾皇孫就而治焉、行矣寶祚之隆當與天壤無窮者矣、ノ天語ヲ依憑トシ又夕彼ノ無

忌無憚ノ妄論者ニ共和論師ノ假名ヲ施シ是ヲ
 敵者トシ尊王護國ノ杞憂者ニ尊王論師ノ假目
 ヲ付シ別ニ一箇ノ新比量ヲ建立シ以テ此ハ因
 明活用ハ一斑ヲ世間ノ論士ニ識知セシメ併セ
 テ彼ノ無忌無憚ノ妄論ヲ粉碎塵散セシメント
 欲ス但シ因明ハ敵者即チ反對論者ヲ定ムルヲ
 要トス然ルニ今マ定ムル所ノ敵者ハ共和政治
 等ヲ貴フ所ノ外國人等ヲ指スニ非ズ即チ其ノ
 身皇國ニ生レナガラカ、ル畏コキ天祖ノ遺勅
 ヲ尊崇セズシテ妄リニ異議ヲ立ツル徒ヲ敵者

注目スハシ

第一 天祖ノ遺勅ハ長ク我ニカニナカニナカニナカニ
 第二 皇統可王ハ天祖ノ遺勅アリ一書一書
 第三 故ニ皇統可王ハ長ク我ニカニナカニナカニナカニ

ト假定スルナリ請フ看者之ヲ諒セヨサテ尊王
 論師ガ共和論師ニ對シテ正ニ立量シテ云ク我
 國皇統可王有法長不可變能別天祖遺勅故因猶
 如天壤同喻猶如奕碁等異喻之ヲ合作法スレバ
 諸天祖遺勅者皆見長不可變猶如天壤ト云フ之
 ヲ新因明ノ合結總陳法ト云フ然ルニ古因明ニ
 テハ五分作法シテ我國皇統可王長不可變宗天
 祖遺勅故因猶如天壤喻天壤有天祖遺勅天壤即
 長不可變我國皇統可王有天祖遺勅我國皇統可
 王亦長不可變合是故得知我國皇統可王是長不

月日若限 卷之上

廿四

可變結ト云ク如此古因明ニテハ天壤ノ遺勅ト
皇統可王ノ遺勅トヲ別陳シ天壤ノ不可變ト皇
統可王ノ不可變トヲ別陳シ又々是故得知皇統
可王長不可變ト別結スル故ニ甚ダ煩シケレド
モ新因明ハ天壤ノ遺勅ト皇統可王ノ遺勅トヲ
總陳シテ諸天祖遺勅者ト云ヒ又々天壤ノ不可
變ト皇統可王ノ不可變トヲ總陳シテ皆見不可
變ト云ヒ次ニ猶如天壤ト同喻ヲ出ダス故ニ別
結ノ煩ヲ用ヒズ而モ義理ハ能ク貫通ス如是諸
ト皆トハ二字ヲ以テ合ト結トヲ總ジテ陳ブル

故ニ是ヲ合結總陳法ト云フ此レ所謂究理者後
精於前ナリ如是合作法ハトギハ先因後宗ニシ
テ因ノ天祖遺勅ヲ先ニシ宗ノ不可變ヲ後ニシ
テ諸天祖遺勅者皆見不可變ト云フガ因明ハ定
規ナリ次ニ離作法スルトキハ先宗後因ニシテ
諸可變者皆見非天祖遺勅猶如奕碁等ト云フヲ
法トス是ハ上ノ合作法ニテ皇統可王長不可變
ハ此度成立シテ何ニタル共和論師モ不服ハ申
シ張ラレヌトニナリタレドモ更ニ濫ヲ止マン
ガ為ニ奕碁ハ異喩ヲ舉グ奕碁ハ碁子ヲ以テ碁

盤ニ置クト雖モ若シ自意ニ適セザレバ又夕廢
スルコトヲ得ル廢置自在ノ者ニシテ容易ニ變
ズベキナリ固ヨリ譬喩ハ一分ト傳ヘテ其ノ全
分ヲ取ルベキモノニ非ズ今ハタゞ可變ノ一邊
ヲ取リテ異喩トスルノミ然ルニ乘基ハ天祖ノ
遺勅アル者ニ非ズ故ニ諸口可變ノ者ハ皆ナ天
祖ノ遺勅アルニ非ズ譬へバ乘基等ノ如シ之ニ
反ジテ觀レバ天祖ノ遺勅アル者ハ長不可變ナ
リ譬へバ天壤ノ如シ天壤ハ天祖ノ遺勅ニ天壤
無窮ト云フ天語アリテ長不可變ノ者ナリ千々

萬々歳ノ末ノ末マデ天覆地載ノ變ズルト云フ
コトハナシ佛家ニハ成住壞空ノ説ア今マ亦夕
其ノ如ク我が日本ノ皇統可王ハ幾ク久ク變ズ
ベカラザルベシト成立スルナリ是ガ因明ノ正
則ナリ又夕宗因喩三支中先ヅ宗ニ就キテ異名
ノ區別ヲ示サバ皇統可王ヲ自性ト云ヒ長不可
變ヲ差別ト云フ自性トハ皇統可王ハ皇統可王
ノ自ニ歸ル者ナリ依テ自性ト云フ差別トハ長
不可變ハ餘ノ天壤へモ通ズル者ナリ依テ差別
ト云フ又夕皇統可王ヲ有法ト云ヒ長不可變ヲ

法ト云フ有法ノ有ハ有徳有財等ト云フ有ト同
義ニシテ皇統可主ハ能ク長不可變ノ法ヲ有ス
ル故ニ有法ト云フ法ハ軌範ニシテ物ノ手本ト
ナルコトナリ又夕此ノ皇統可主ヲ所別ト云ヒ
長不可變ヲ能別ト云フ皇統可主ハ長不可變ニ
差別セララル者ナリ長不可變ハ皇統可主ハ可
變ニ非ズ不可變ナリト能ク差別スル者ナリ又
夕皇統可主ハ前ニ陳スル故ニ前陳ト云ヒ長不
可變ハ後ニ陳スル故ニ後陳ト云フ又夕皇統可
主ハ前ニ説ク故ニ前説ト云ヒ長不可變ハ後ニ

説ク故ニ後説ト云フ又夕皇統可主長不可變ノ
前陳後説ヲ合シテハ總宗ト云ヒ離シテハ別宗
ト云フ其ノ別宗タル皇統可主ト長不可變トヲ
繋キ合シテ皇統可主長不可變ト熟シテ説クヲ
互相差別不相離宗ト云フ新因明ニ在テハ是ガ
正キ宗體ナリ古因明ニテハ或ハ前陳ノ皇統可
主ト後陳ノ長不可變トヲ宗體トスレドモ新因
明ニテハソレハ宗依ナリトシテ正ク不相離宗
ヲ指シテ宗體トスルナリ次ニ喻ニ就キテ異名
ヲ示サバ或ハ同喻異名或ハ同品異品或ハ同法

異法或ハ同類異類ト云フ然ルニ古因明ニテハ
天壤ヲ以テ同喻ノ體トシ乘基等ヲ以テ異喻ノ
體トス新因明ニテハ天壤乘基ノ名言ハ喻依ニ
シテ喻體ニ非ズ正ク喻體トスル所ハ諸天祖遺
勅者皆見長不可變ト云フ合作法ノ天壤ニ天祖
ノ遺勅ト長不可變トノ義ノ在ル所ヲ同喻ノ體
トシ諸可變者皆見非天祖遺勅ト云フ離作法ノ
乘基ニ可變ト非天祖遺勅トノ義ノ在ル所ヲ異
喻ノ體トス若シ古因明ノ如ク喻依ヲ以テ喻體
トスルトキハ理ヲ以テ推究スルニ喻ガ喻ニナ

ラ又コトニナル喻依、喻體ノ區別ハ爰此ノ宗因ニ整スベキニアラズ此ノ宗因
喻ノニ支ヲ西洋ノ論理術ハ宗因ハニ支ハニアリテ
ルニ西洋ノ論理術ハ宗因ハニ支ハニアリテ
ハ一支欠ケテナシ一ニノ例ヲ出サバ似而非者
ハ因真ヲ亂ル者ナリ能別郷愿ハ有法似而非者
ナリ因故郷愿ハ有法真ヲ亂ル者ナリ能別然レ
バ西洋デハ第十段ニ似而非者ト云フ因ト真ヲ
亂ルト云フ能別トヲ舉ゲ第二段ニ郷愿ハト云
フ有法ト似而非者ト云フ因トヲ舉ゲ第三段ニ
郷愿ノ有法ト真ヲ亂ル者ト云フ能別ヲ舉ゲ結

スルナリ、今マ本量ヲ隨轉シテ作法セバ天祖ノ
遺勅ナル者ハ因長不可變ナリ、能別皇統可王ハ
有法天祖ノ遺勅ナル者ナリ、因故ニ皇統可王ハ
有法長不可變ナリ、能別ト云ハンガ如シ依テ宗
因ニ支ノミニシテ、喻ノ一支欠ケテ無シ、又夕彼
ヲ因明作法ニ引キ直セバ郷愿有法應亂真能別
似而非故、因ノ宗ト因トハ有レドモ、喻ノ一ハ欠
ケテ無シ、無體闕ハ過アリ、是ニ猶如莠ト云フ、同
喻ヲ舉グルトキハ、始メテ三支具足ス、依テ諸似
而非者皆見亂真猶如莠ト、合作法ガナル唯ダ宗

因ハミニテハ、合作法ガナラズ依テ義ガ確乎夕
ラザルナリ、又夕凡ソ生アル者ハ、因死スベキ者
ナリ、能別人ハ有法生アル者ナリ、因故人ハ有法
死スベキ者ナリ、能別ト云フモ、同例ニシテ、人ハ有
法應必死能別有生故、因ノ宗因ノミニシテ、喻ハ
欠ケテ無シ、依テ人應必死ノ宗ガ確乎トシテ成
立セズ、若シ此ノ宗因ノ上ニ猶如禽獸ト云フ、同
喻ヲ舉グルトキハ、全璧無過ニハ非ザレドモ、一
應ハ諸有生者皆見應必死猶如禽獸ト、合作法ガ
ナル、依テ人應必死ノ宗ヲ成立スルコトヲ得ベ

然ルニロジックハ其ノ學實ニ希臘ノ學士亞立
斯度德ノ創說スル所ト云フ西史ニ曰ク紀元前
三百二十七年馬基頓王亞歷山得親ラ木兵ヲ帥
井テ印度ヲ攻メ進ミテ恒河ニ至リ其ノ國ノ諸
學士ヲ引見シ書ヲ著シテ之ヲ本國ハ亞立斯度
德ニ致スト亞立斯度德ハ即チ亞歷山得ハ師ナ
リ然ラバ則チ彼ノロジックハ安ンゾ當時亞歷山
得ノ採取スル所ニシテ源ヲ印度ノ因明法ニ發
スルニ非ザルコトヲ知ランヤ故ニ其ノ法タル
因明ト大同小異ナリ但シ前段ニ縷述シタル如

ク因明ハ喻支ヲ用ヒテ自悟ト他ハ兩益ヲ兼テ
ロジックハ喻支ヲ用ヒズ專ラ自悟ハ下邊ヲ取ル
故ニ近來ニ至リテ頗ル委曲詳悉セリト雖モ因
明ヨリ之ヲ觀レバ兩益ト下益ト其ハ偏全完欽
ハ別アルコト智者ヲ待タズシテ知ルベキナリ

第六章 三量ニ因

先ツ三量トハ南北其ノ傳ヲ異ニス南寺傳ニ曰
ク他比量自比量共比量ナリ他比量ハトキハ宗
因喻ハ三支俱ニ他許自和許ハ法ヲ舉ゲテ宗ニ
ハ汝執ト云フ簡別ヲ用ヒ因喻ニハ許ト云フ簡

孰讀スベシ

別ヲ用フルが法ナリ又々自比量ノトキハ宗因
喻俱ニ自許他[○]不許ノ法ヲ擧ゲ宗ニハ我許ト云
フ簡別ヲ用ヒ因喻ニハ許ト云フ簡別ヲ用フル
が法ナリ又々共比量ハトキハ宗因喻俱ニ共許
ノ法ヲ擧ゲ簡別ヲ用ヒザルが法ナリ若シ自他
比量ニ簡別ヲ用ヒザルトキハ宗ニハ所別不極
成ハ過ヲ招キ因ニハ隨一不成ハ過ヲ招キ喻ニ
ハ俱不成ノ過ヲ招クコトニナル故ニ因明ハ自
他ノ宗義ヲ審察シテ上ノ如ク簡別スルヲ肝要
トス「冠註」云凡因明法所能立中若有簡別便無過

簡別

他比量ノ他許

自不許ノ時

宗ニハ汝執

因ト喻トハ

許ス

自比量ノ自許

他不許ノ時

宗ニハ我許

因ト喻トハ

共比量ノ共許

ノ時

宗因喻 簡別

失ト佛者ガ耶蘇徒ニ對シテ云ク汝執耶和華非
無始無終[○]宗許能生者故[○]因如許馬利亞[○]同喻如許
元素[○]異喻如是簡別ヲ用フルが他比量ノ例ナリ
佛者ガ耶蘇徒ニ對シテ我許帝釋[○]應居須彌頂[○]宗
許三十三天[○]隨一故[○]因如許餘三十三天[○]同喻如許
四手天[○]異喻ト如此簡別ヲ用フルが自比量ノ例
ナリ此ノ他自共ノ三量モ詳ニ云ヘバ他比量ノ
他比量他比量ノ自比量他比量ノ共比量自比量
ノ他比量自比量ノ自比量自比量ノ共比量共比
量ノ他比量共比量ノ自比量共比量ノ共比量ト

九種ノ差別アリテ各自ニ簡別ノ法アリ故ニ木
中疏云然諸比量畧有三種一他ニ自ニ共他比量中
畧有三共自比共比各三亦然合有九共トソノ詳
ナルコトハ爰ニ盡スコト能ハ因次ニ因トハ
冠註木疏云因有二種一^生二^了如種生等能別起用故
名^生因如燈照物能顯果故名^了因生因有^三一
言生因ニ智生因三義生因了因有^三一智了因二
言了因三義了因トサテ生因ニ三アル中一ニ言
生因トハ立者ハ言能ク敵者ハ智解ヲ生ズルハ
種ハ芽ヲ生ズルガ如シ依テ言生因ト名ヅク生

即因言即生因兩重ノ持業釋ナリニニ智生因ト
ハ智トハ立者發言ハ智ナリ智ハ能ク言ヲ起ス
然レバ智ハ言生因ヲ為ノ因トナル依テ生之因
ノ依主釋智即生因ノ持業釋ナリ三ニ義生因ト
ハ義ニ二種アリ一ハ道理ヲ義ト名ヅケ二ハ境
界ヲ義ト名ヅク道理義ノトキハ義ハ所詮ニテ
言ハ能詮ナリ義ハ言生因ノ言ニ詮顯セラル
故ニ所詮ノ義ニ能詮ノ言生因ノ生因ノ目ヲ與
ヘテ生因ト云フ全取他名ノ有財釋又夕義即生
因ノ持業釋ナリ又夕境界義ノトキハ義ガ境ト

ナリテ能ク敵證者ノ智ヲ生ズル故ニ生因ト名
ヅク此ノトキハ生即因義即生因ノ兩重ノ持業
釋ナリ然ルニ原ト宗義ヲ立ツルハ他ノ解ヲ生
ゼンガ為メニテ他ノ解ヲ生ズルハ立者ノ言ニ
因ル故ニ言生因ヲ正生トシ智ト義トヲ兼生ニ
攝スルナリ又タ了因ニ三アル中ニ一ニ智了因ト
ハ智ハ敵證者ノ能立ハ因ヲ了ジ宗ヲ了ズルハ
智ナリ此ハ智能ク所説ヲ照解スルコト燈ノ物
ヲ照スガ如キ故ニ名ヅケテ了因トス了即因智
即了因兩重ノ持業釋ナリニ一ニ言了因トハ言ハ

立者能立ハ言ナリ立者ノ言ニ由テ敵者證者所
立ヲ了解スル智了因ノ為ニ因トナル故ニ名ヅ
ケテ言了因トス了之因ノ依主釋言即了因ノ持
業釋ナリ三ニ義了因トハ義ハ立者能立言下ノ
所詮ノ義ナリ此ノ義ガ境トナリテ能ク他ノ智
了ヲ生ズ智ハ所生ニテ義ハ能生ナリ然レバ義
ハ智了因ノ為ノ因トナル故ニ了之因ノ依主釋
義即了因ノ持業釋ナリ且ツ能立ノ義ニ由テ所
立ノ宗ヲ成ジ能ク宗ヲ照顯スル故ニ義モ亦了
了因ト名ヅク此ノトキハ了即因義即了因ノ持

業釋ナリ然ルニ立者ノ智ハ久ク已ニ宗ヲ解ス
故ニ今マ宗ヲ立スルハ原ト他ノ解ヲ生ゼンガ
為メナルニ他ノ敵證者ノ智解正ニ是レ了因ナ
リ言ト義トハ之ヲ兼ヌレバ兼了ニ攝スルナリ

第七章 因有三相

因ニ三相アリトハ何ゾヤ曰ク徧是宗法性同品
定有性異品徧無性ノ三ナリ又タ三向三面三邊
トモ云フ第一ニ徧是宗法性トハ徧ジテ是レ宗
法タル性ト訓ジテ徧ハ周遍ノ義ニテ行キ渡
ル下ナリ宗ハ有法能別ノ中前陳ハ有法ヲ指ス

一 行渡リテ因ガ
宗ノ手本ト成ル
義
二 同喻ニ因ノ義
ガ必ズ關係シテ
アル義
三 異喻ニ因ノ義
ガ少シモ關係
ナキ義

熟讀スベシ

法ハ軌範ニテ手本トナル義ナリ性トハ義性ナ
リ因ニハ宗ハ有法ニ行キ渡リテ當體ニ有法宗
ハ手本トナル義アルヲ云フ今マ本量ノ天祖遺
勅故ハ因ハ當體ガ皇統ハ有法ニ手本トナル義
ヲ具ス若シ此ハ第十相ヲ欠クトギハ因ハ四不
成ハ過トナレ第ニ同品定有性トハ同品ニ定
メテ有ナル性ト訓ジテ同品トハ同ハ相似ノ義
品ハ體類ノ義ニテ相似ハ體類ヲ同品ト云フ即
チ同喻ハコトナリ此ハ同品ニ宗同品因同品ト
云フコトアリ宗ト相似同類ナルヲ宗同品ト云

熟讀スベシ

ト、因ト相似同類ナルヲ因同品ト云フ今ハ宗同
品ノコトナリ定有性トハ宗ト同類タル同類ニ
因ハ義ガ必ズ關係シテ有ルト云ハコトナリ有
トハ合スル義又夕之ヲ轉トモ云フ本量ニテ云
ハシ不可變ハ義ガ宗同品ナリ此ハ宗同品ノ不
可變ニハ太祖遺勅ハ因ガ此度關係シテアリ太祖
無窮ト云フ遺勅ハ天語アリ豈ニ關係スルニ非
ズヤ是ヲ同品定有性ト云フ第三ニ異品偏無性
トハ異品ニ偏シテ無ナル性ト訓ジテ異品トハ
異ハ別異ノ義品ハ聚類ノ義ニシテ宗ハ有法ト

（即チ異喻ノコトナリ）

徧ユキワタル

一

別異ナル聚類ヲ異品ト云フ徧無性トハ其ノ異
品ニ徧ジテ無ナル義性ヲ云フ此ノ異品ニ宗異
品因異品ト云フコトアリ宗ト異類ナルヲ宗異
品ト云ヒ、因ト異類ナルヲ因異品ト云フ今ハ宗
異品ノコトナリ本量ニテ云ハシ可變ハ義ガ宗
異品ナリ其ノ宗異品ハ異喻ノ可變ハ太祖遺勅
ニ非ザレバ太祖遺勅ハ因ハ更ニ異喻ノ可變ニ
關係ナシ是ヲ異品徧無性ト云フ此ノ後ニ相中
或ハ全分或ハ下分同品定有ヲ欠キ或ハ異品徧
無ヲ欠クヲ不定ハ過トシ後ニ相全欠ヲ四相違

熟讀スベシ

トス、此ハ因ハ三相ハ頗ル要義ナリ、此ノ三相ヲ具スルヲ正因トシ、此ノ三相ヲ具セザルヲ邪因トス、邪因ハ因故ナリト雖モ、因故タルヲ成ズルコト能ハズ

第八章 足目九句

九句因ハ天地始創ノ時キ足目仙人ノ發揮ナリ、同品ニ有ト、非有ト、有非有トノ三句アリ、異品ニ有ト、非有ト、有非有トノ三句アリ、之ヲ相乗ズルトキハ三三九句トナル、先ヅ同品有ニ異品ノ三句ヲ乗ズルトキハ同品有異品有ノ句ト、同品

有異品非有ノ句ト、同品有異品有非有ノ句ト、三句ヲ成ズ、次ニ同品非有ニ異品ノ三句ヲ乗ズルトキハ同品非有異品有ノ句ト、同品非有異品非有ノ句ト、同品非有異品有非有ノ句ト、三句ヲ成ズ、後ニ同品有非有ニ異品ノ三句ヲ乗ズルトキハ同品有非有異品有ノ句ト、同品有非有異品非有ノ句ト、同品有非有異品有非有ノ句ト、三句ヲ成ズ、已上三三合シテ九句因ト云フ、爰ニ同品ト云フハ宗同品、因同品ノ中ニテハ宗同品ノコトナリ、又ハ異品ト云フモ、宗異品、因異品ノ

中ニテ公宗異品ノコトナリ有ト非有ト有非有
ト公有ト公因が喩ニ干預シテ有ナルコトナリ
非有ト公因が喩ニ干預セズシテ無ナルコトナ
少^レ有非有ト公因が喩ニ干分ハ干預シ、干分ハ干
預セヌコトナリ此ノ九句中第二ノ同品有異品
非有ト第八ノ同品有非有異品非有ト八二句公
正因ナリ第四ノ同品非有異品有ト第六ノ同品
非有異品有非有ト二二句公相違因ナリ次下因
十四過
中此ノ二八四六ノ餘ノ第十一ノ同品有異品有ト
第三ノ同品有異品有非有ト第五ノ同品非有異

品非有ト第七ノ同品有非有異品有ト第九ノ同
品有非有異品有非有ト八五句公不定因ナリ亦
十四過依テ總攝ノ頌ニ二八為正因四六相違攝
中出 所餘皆不定正似應當知ト云フ試ニ世事ニ活用
ノ假リニ九句ノ作法ヲ示スベシ

○第一ニ同品有異品有トハ因ノ十四過中六不
定中第一ノ共不定ニシテ各宗民有地寺院住職
ガ政府ニ對シテ正ニ立量シテ云ク此寺院敷地
我單有^カ有^カ地券證故^ニ因如餘單有耕地同喩
如村
社敷地異喩
六不定出此ノ有地券證故ノ因ハ宗同

品ノ餘ノ單有耕地ニモ干預シ宗異品ノ村社敷地ニモ干預ス依テ同品有異品有ノ句トナル

○第二ニ同品有異品非有トハ是ハ正因ニテ本量ニ尊王論師ガ共和論師ニ對シテ我國皇統可

王長不可變宗天祖遺勅因故如天壤同喻如奕碁等異喻ト立量スルガ如シ天祖遺勅故ノ因ハ宗

同品ノ天壤ニハ干預シテ宗異品ノ奕碁ニハ干預セズ依テ同品有異品非有ノ句トナル

○第三ニ同品有異品有非有トハ六不定ノ第四同全異分ノ句ニシテ政府ガ下民ニ對シテ山林

課租宗有收穫故因如耕地等同喻如不毛地河

池海異喻ト立ツルガ如シ有收穫故ノ因ハ宗同品ノ耕地等ニハ全分干預シ宗異品ノ不毛地ノ

一分ニハ干預セズシテ河池海ノ一分ニハ干預シテアリ依テ同品有異品有非有ノ句トナル

○第四ニ同品非有異品有トハ因ノ十四過中相違因ニテ斷見外道ガ佛者ニ對シテ人之生前死

後應必無宗比例知有故因猶如龜毛兎角同喻猶如昨日明日異喻ト立ツル如シ比例知有故ノ因

ハ須ク有ナルベキ宗同品ノ龜毛兎角ニ非有ニ

シテ須ク非有ナルベキ宗異品ノ昨日明日ニ却
テ有ナリ 具ニハ四 相違下出 依テ同品非有異品有ノ句ト
ナル

○第五ニ同品非有異品非有トハ六不定ノ第二
不共不定ニテ政府ガ下民ニ對シテ此耕地官有
宗培養穀物故ニ因 如鎮臺鋪地 同喻 如農商家具 異
喻ト立ツルガ如シ培養穀物故ノ因ハ宗同品ノ
鎮臺鋪地ニモ干預セズ宗異品ノ農商家具ニモ
干預セズ依テ同品非有異品非有ノ句トナル
○第六ニ同品非有異品有非有トハ所謂相違因

ナリ斷見ガ佛者ニ對シテ人之生前死後應必無
宗比例知有故 猶如龜毛兔角 同喻 猶如昨今明
三日 異喻 ト立ツルガ如シ此ノ比例知有ノ因ハ
宗同品ノ龜毛兔角ニ非有ニシテ宗異品ノ昨日
明日ノ一分ニ有ニシテ今日ノ一分ニ非有ナリ
今日ハ比例知有ノ者ニ非ズ現量知有ノ者ナリ
依テ同品非有異品有非有ノ句トナル
○第七ニ同品有非有異品有トハ六不定ノ第三
同分異全不定ニテ下民ガ政府ニ對シテ池沼可
為無稅 宗有地券證故 因 如墓池海面等 同喻 如耕

地宅地異喻ト立ツルガ如シ此ノ有地券證故ノ
因ハ宗同品ノ墓地ノ一分ニハ有ナレドモ海面
ノ一分ニハ非有ナリ而モ宗異品ノ耕地宅地ニ
ハ却テ有ナリ依テ同品有非有異品有ノ句トナ
ル
○第八ニ同品有非有異品非有トハ亦夕正因ニ
テ本量ノ同喻ニ北極ノ一ヲ加ヘテ我國皇統可
王長不可變宗天祖遺勅故因如天壤北極同喻ト
立ツルガ如シ天祖遺勅ノ因ハ宗同品ノ天壤ノ
一分ニ有ニシテ北極ノ一分ニハ非有ナリ北極

ハ不可變ナレドモ天祖ノ遺勅アルニ非ズ故ニ
非有ナリ而モ宗異品ノ夾碁ニハ全分非有ナリ
依テ同品有非有異品非有ノ第八正因ノ句トナ
ル然ルニ第二正因ノ如キハ同品有異品非有ユ
エニ疑ハナケレドモ此ノ第八正因ハ同品有非
有ユエニ同品有ノ邊ハ過ハナケレドモ同品非
有ノ邊ハ過トナルベシト云フ疑ヒアリ是ハ因
ト宗ト相望スルニ寬狹ノ不同アリテ自ラ四句
分別トナル就中寬因ヲ以テ狹宗ヲ成ズルノ一
句ハ因ガ寬ニシテ宗ノ外ニ溢ル、故ニ不定ノ

過トナレドモ寛因ヲ以テ寛宗ヲ成ジ狭因ヲ以テ寛宗ヲ成ジ狭因ヲ以テ狭宗ヲ成ズルノ三句ハ不定ノ過ナシ今マ第八正因ノ例ニ出ダス北極ノ一分ハ宗同品ニテ不可變ノ者ナレドモ天祖ノ遺勅アルニハ非ガル者ナリ然レバ不可變ノ宗ハ寛ニテ天祖遺勅ノ因ハ狭ト云フベシ即チ狭因ヲ以テ寛宗ヲ成ズルノ例ナレバ過トハナラズ

○第九ニ同品有非有異品有非有トハ六不定中第五俱分不定ナリ愛知縣下、人民ガ他縣下、人民

ニ對シテ愛知、皇國上等都會^{ナカシ}有鎮臺故^因如^三府^同如^餘處^異如^餘處^異ト立ツルガ如シ鎮臺ノ因ハ宗同品ノ三府中ノ京都府ノ一分ニハ非有ニシテ東京府大坂府ノ一分ニハ有ナリ又夕宗異品ノ餘處中金澤廣島等ノ一分ニハ有ニシテ餘ノ處ニハ非有ナリ依テ同品有非有異品有非有ノ句トナル已上三相九句ハ立量作法ノ最モ緊要ナル者ナリ例ヲ算學ニ取レバ猶ホ九九ノ要數ノ如シ須臾モ離ル可ラズ豈ニ可不究乎

第九章 似宗九過

過

因月古良

卷之上

四一

似宗ノ九過トハ一ニ現量相違二ニ比量相違三ニ自教相違四ニ世間相違五ニ自語相違六ニ能別不極成七ニ所別不極成八ニ俱不極成九ニ相符極成ヲ云フ

○第一ニ現量相違トハ現今當前ノ道理ニ相違スルヲ云フ譬ヘバ現ニ色ヲ見ツ、色ハ所見ニ非ズト云ヒ現ニ聲ヲ聞キツ、聲ハ所聞ニ非ズト云フガ如シ

○第二ニ比量相違トハ立者ノ宗ト敵者ノ因ト相違スルヲ云フ譬ヘバ立者が諸縣ハ非政府ト宗

ヲ舉グルニ敵者ハ忽チ能違ノ量ヲ作りテ諸縣政府ハ保護人民ハ故因如内務省ハ同喻ト云フガ如シ凡ソ比量トハ敵論者が彼ト此ト比度比例シテ道理ヲ觀ズルノ智ヲ云フ前譬ノ如ク敵論者が比例ノ智ヲ以テ諸縣保護人民ノ場處ユエニ是レ亦タ政府ニシテ内務省ノ如シト發難セザルヲ得ザル勢ヒニ至ラシムルハ是レ立者が彼ノ比例智ニ相違ヲ生ズル宗ヲ立ツルガ故ニテ立者ノ過トス此ノ外ニ因ヲ比量ト云フ義モアレドモ因ニ由テ生ズル敵智ナレバ到底一致ニ

歸スト知ルベシ本量ノ如ク皇統可王長不可變
ト云ヘバ更ニ敵論者ノ比例智ニ違セズ依テ比
量相違ノ過ヲ離ル

○第三ニ自教相違トハ所立ノ宗ガ自宗所説ノ
道理ニ違スルヲ云フ譬ヘバ神道者ガ高天原ハ
無ナルベシト立テ佛者ガ天上界ハ無ナルベシ
ト立ツルガ如シ神道者ガ自宗ハ高天原アリト
立テ佛者ノ自宗ハ天上界アリト立ツベキニ自
ラ高天原ハ無シ天上界ハ無シト云ヒテハ自ガ
自ニ違スルコトニナル依テ自教相違ノ過トス

今マ本量ノ如ク尊王論師ガ皇統可王長不可變
ト云ヘバ更ニ自ガ自ニ違スル過ナシ依テ自教
相違ノ過ヲ離ル

○第四ニ世間相違トハ法ノ道理ハ立ツベケレ
ドモ世間ニ通ゼヌヲ云フ譬ヘバ長壽ハ願フ所
ニ非ズ金貨ハ欲スル所ニ非ズ女色ハ好ム所ニ
非ズト云フガ如シ若シ出世間ニ約スルトスレ
バ道理上ハ立ツベケレドモ世間中人皆ナ長壽
ヲ願ヒ金貨ヲ欲シ女色ヲ好ム然ルニ已レ獨リ
屈原ガ獨醒ヲ學ビテ偏僻ヲ云ヒテモ世間ニ通

ゼズ依テ是ヲ世間相違ノ過トス今マ本量ニ皇
統可王長不可變ト云フヲ共和論師ハ服スマジ
ケレドモ餘ノ日本國人ハ皆ナ共ニ皇國ハ皇統
一系ヲ以テ萬國無比ノ國體トスルユ工何ニハ
變ズレドモ帝王ハ不可變ト確信ス故ニ世間相
違ノ過ヲ離ル

○第五ニ自語相違トハ自語ノ體ト義トガ相違
スルヲ云フ譬ヘバ青葉ノ紅葉細根ノ大根鐵製
ノ土瓶ト云フガ如シ又夕地球ハ圓ナル者ニ非
ザルベシト云フガ如シ青葉ナラバ紅葉ト云フ

ベカラズ細根ナラバ大根ト云フベカラズ鐵製
ナラバ土瓶ト云フベカラズ又夕地球ノ球ハ圓
キ義ナル故ニ圓ナル者ニ非ズト云フベカラズ
然ルニ右ノ如ク云フトキハ因喻ヲ待タズシテ
現在申シ陳ブル宗ノ一言句中ニ前後相違スル
コトニナル故ニ自語相違ノ過トス今マ本量ニ
皇統可王長不可變ト云フニ更ニ如此ノ過ナシ
故ニ自語相違ノ過ナシ已上五過ハ陳那モ天主
モ俱ニ之ヲ立ツルナリ

○第六ニ能別不極成トハ所別ハ有法ナリ能別

ハ法ナリ此ノ能別所別ハ宗依ト云ヒテ議論ノ
本トナレバ立敵共ニ許ス者デナクテハナラヌ
若シ此ノ二別ノ中立者或ハ敵者ガ許サヌコト
アレバ議論ノ本ガナケレバ其ノ是非ヲ論ズル
宗體ノ立タザルヲ云フ就中今ハ後陳能別ノ法
ヲ敵者ハ許サヌ者ニ就キテ宗ヲ立スルヲ能別
不極成ト云フ極成ハ至極成就ノ義ニテ道理至
極シテ元ヨリ成立シテアルヲ云フ譬ヘバ佛者
ガ耶蘊ノ徒ニ對シテ五大洲ハ須彌界ニ攝スト
云ハンガ如シ耶蘊ノ徒ハ須彌界ト云フ者ヲ許

サヌ故ニ能別不極成ノ過トナル若シ自比量ナ
レバ過ナシ其ノトキハ許ノ言ヲ用ヒテ許須彌
界攝トスベシ然ルニ本量ノ如キハ共和論師モ
亦タ後陳能別ノ長不可變ト云フ名言ハ元ヨリ
共許極成ユエニ此ノ過ヲ離ル

○第七ニ所別不極成トハ前陳有法ノ言ヲ極成
シテ許サヌヲ云フ譬ヘバ耶蘊ノ徒ガ佛者ニ對
シテ耶蘊ハ救世者ナルベシト云フガ如シ立論
ノ耶蘊ノ徒ハ耶蘊ト云フコトヲ許セドモ敵論
ノ佛者ガ許サヌ故ニ所別不極トナル然レドモ

自比量ナレバ過ナシ其ノトキハ許ノ言ヲ加ヘ
テ許耶蘇ト云フベシ今マ本量ノ所別タル皇統
可王ハ何タル共和論師モ共許極成ユエニ此ノ
過ナシ

○第八ニ俱不極成トハ所別能別共ニ敵者ノ許
サ又者ニ就キテ宗ヲ立ツレバ敵者ノ方ニテ一
向相手ニナラヌ故ニ俱不極成ト云フ譬ヘバ耶
蘇ノ徒ガ佛者ニ對シテ耶蘇應被處十字架ト云
フガ如シ又夕佛者ガ耶蘇ノ徒ニ對シテ帝釋應
居須彌頂ト云フガ如シ立ノ耶蘇ノ徒ニテハ前

陳所別ノ耶蘇ト云フコトモ後陳能別ノ十字架
ニ處セラルト云フコトモ許セドモ敵ノ佛者
ハ許サ又故ニ一向ニ相手ニナラヌ又夕立ノ佛
者ハ前陳所別ノ帝釋ト云フコトモ後陳能別ノ
須彌ト云フコトモ許セドモ敵ノ耶蘇ノ徒ハ許
サ又故ニ一向相手ニナラヌ是ヲ俱不極成ト云
フ但シ因明ノ規矩トシテ自比量ノトキハ我許
ノ簡別ヲ用フレバ過ナシ前ノ能別不極成所別
不極成ニ准ジテ知ルベシ然ルニ本量ハ前陳所
別ノ皇統可王モ後陳能別ノ長不可變モ敵ノ共

和論師ハ共許極成ノ故ニ此ノ過ヲ離ル
○第九ニ相符極成トハ元ヨリ立量ヲ用フルハ
立敵ニ論者ガ一許一不許ノ兩端ヲ決スルヲ云
フ立敵共許スルコトヲ宗ニ立ツレバ兩方ノ義
ガ符合シテ復タ論ズルニ及バズ全ク無用トナ
ルヲ相符極成ト云フ骨折ガ虚クナル故ニ虚功
トモ云フ又タ本来成立シタルコトナレバ立已
成トモ云フ譬へバ裁判ヲ仰グハ原告被告ノ義
ガ違フ故ナリ原告ハ金圓ヲ受ケ取ラ子バナラ
又ト云ヒ被告ハ金圓ヲ辨償セ子バナラ又ト云

フ兩義一致ナレバ裁判ヲ仰グハ虚功ト云フ者
ナリ立已成ト云フ者ナリ相符極成ト云フ者ナ
リ故ニ甲ノ佛者ガ乙ノ佛者ニ對シテ天道地獄
ハ實有ナリト云フトキハ乙ノ佛者モ同論ユエ
立敵共ニ其ノ義一致ナリ一致ノ義ヲ對論スル
ヲ此ノ過ニ攝ス今マ本量ニ舉グル前陳所別ノ
宗依タル皇統可王ト後陳能別ノ宗依タル長不
可變ト之ヲ組ミ合セテ皇統可王長不可變ト云
へバ立ノ尊王論師ハ許セドモ敵ノ共和論師ハ
之ヲ許サズ一許一不許ユエニ諍ヒトナル依テ

相符極成ノ過ヲ離ル已上四過ハ天主ノ加フル
所ナリ前ノ五過ヲ併セ是ヲ似宗ノ九過トス

因明活眼卷之上終



因明活眼卷之下

三河 雲英晃耀



第十章 因十四過

似因ノ十四過トハ一ニ兩俱不成二ニ隨一不成
三ニ猶豫不成四ニ所依不成五ニ共不定六ニ不
共不定七ニ同品一分轉異品徧轉不定八ニ異品
一分轉同品徧轉不定九ニ俱品一分轉不定十二
相違決定十一ニ法自相相違十二ニ法差別相違
十三ニ有法自相相違十四ニ有法差別相違ヲ云
フ就中初四ヲ不成ト云ヒ中六ヲ不定ト云ヒ後

因明活眼卷之下

四ヲ相違ト云フ

○第一ニ兩俱不成トハ不成ノ名義ヲ解スルニ
 已下四不成ニ互リテ因體不成ト不成宗トノ二
 義アリ因體不成ハ不成即因ノ持業釋ニテ有法
 ニ望ミテ論ズル義ナリ不成宗ハ不成宗ノトキ
 ハ因用不成ユエ不成之因ノ依主釋ニテ後陳ノ
 能別ヘ望ミテ論ズル義ナリ兩俱ハ立敵兩方相
 俱ト云フコトナリ即チ立敵兩リ俱ニ能立ノ因
 ガ因體ヲ成ゼズ又夕能立ノ因ガ所立ノ宗ノ道
 理ニ離レテ宗ヲ成ズルコト能ハザルヲ兩俱不

成ト云フ即チ因ノ三相ノ中初相ノ遍是宗法性
 ヲ闕ク過ナリ例セバ洋學者ガ國學者ニ對シテ
 日輪應火聚_宗耳所聞_因故ト云フガ如シ日輪ハ
 眼ニハ見ユレドモ耳ニハ聞カレヌト云フハ洋
 學者モ國學者モ共ニ承知ノコトナリ然ルニ耳
 所聞ト云ヒテハ此ノ因ハ立敵兩リ俱ニ有法ノ
 日輪ニ行キ渡ラズ依テ兩俱不成ノ似能立トナ
 ル此ニハ有體無體ト云ヒテ共言ヲ用フルト不
 共言ヲ用フルトノ別アリ又夕全令一分ノ別ア
 リテ四種ノ兩俱不成アレドモ今ハ有體全分ノ

過ヲ示ス例ヲ出ス耳然ルニ前立ノ本量ノ如キ
ハ天祖遺勅故ノ因ガ皇統可王ノ有法ニ行キ渡
リテアルト云フコトハ尊王論師モ共和論師モ
兩俱共許ノコト故ニ兩俱不成ノ過ヲ離ル、ナ
リ

○第二ニ隨一不成トハ隨一ハ一ニ隨フト云フ
コトニテ能立ノ因ガ立敵ノ中何レカ一方許サ
又義令ナレバ隨一不成トナル此レ亦タ因ノ初
相ヲ闕ク過ナリ此ニ自隨一ト他隨一トアリテ
且ク作法セバ佛者が洋學者ニ對シテ日輪應非

火聚

宗 日天子所居故 因 ト云フガ如キハ立ノ佛

者ハ日輪ハ日天子ノ所居ト許セドモ敵ノ洋學
者ハ之ヲ許サ又故ニ此ノ因ガ他隨一不成ノ過
トナル又夕洋學者ガ佛者ニ對シテ日輪應火聚
宗 日天子所居故 因 ト云フガ如キハ敵ノ佛者ハ
日輪ハ日天子ノ所居ト云フコトハ許セドモ立
ノ洋學者自ラ許サ又故ニ此ノ因ハ自ノ洋學者
中ノ一方ガ有法ノ日輪ニ行キ渡ラズ依テ自隨
一不成ノ過トナル此ニハ有體、無體、全分、一分ノ
別アリテ八種ノ差別アレドモ今マ且ク無體全

分ノ自隨一ト無體全分ノ他隨一トノ例ヲ示ス
然ルニ本量ニ舉グル天祖遺勅故ノ因ハ皇統可
王ノ有法ニ行キ渡レリト云フコトハ立敵二論
師共許極成ナリ故ニ隨一不成ノ過ナシ
○第三ニ猶豫不成トハ猶豫ハ疑ヒテ決セヌコ
トナリ立敵共ニ疑ヒテ決セヌコトヲ能立ノ因
ニスレバ所立ノ宗ガ孰レトモ片付カヌコトニ
ナルヲ猶豫不成ト云フ此レ亦タ因ノ初相ヲ闕
ク過ナリ譬ヘバ爰ニ水アリ酢トモ茶トモ藥ト
モ酒トモ疑ヒテ決セヌトキ一人アリテ此物必

有^レ可^レ醉^ル之^ノ功能宗 酒故因 ト云フト雖モ此ノ酒故
ノ因ヲ以テ此物必有可醉之功能ノ宗ヲ決スル
コト不能即チ酒故ノ因ガ猶豫シテ此物ト云フ
宗ノ有法ニ行キ渡ラヌガ如シ是ヲ猶豫不成ノ
似能立トス此ニモ兩俱ト隨一トニ全分ト一分
トアリテ具ニ六種アレドモ今ハ兩俱全分ノ猶
豫ヲ示スナリ然ルニ本量ニ舉グル天祖遺勅故
ノ因ハ立敵共ニ決定同許ノ因ナル故ニ決定シ
テ皇統可王ノ有法ニ行キ渡リ長不可變ノ能別
ヲ成ズ依テ猶豫不成ノ過ナキナリ

○第四ニ所依不成トハ所依ハ宗依ノ中前陳ノ有法ナリ有法ハ諍ノ起ル本ニシテ能立ノ因ニ能ク依託セラル、者ナレバ所依ト云フ故ニ有法ハ立敵共言ノ法ヲ舉グベキ筈ナリ然ルニ所別不極成ト云ヒテ有法ニ立敵不共言ノ法ヲ舉グルトキハ能立ノ因ガ所依ノ有法ニ無キ故ニ此ノ因ヲ以テ一不許ノ宗ノ能別ノ義ヲ成ズルコト能ハズ故ニ所依不成ト名ヅク然レバ宗ニ所別不極ノアル者ニハ因ニ必ズ所依不成アリト云フガ定規ナリ此レ亦タ因ノ初相ヲ闕ク過

ナリ此ニモ兩俱隨一、自他全分一分ノ別アリテ九種アレドモ今マ且ク有體他隨一全分ノ例ヲ示サバ佛者が斷見ニ對シテ過未實有九レ宗比例所九レ知故二因ト云ヘバ過去世未來世ノ言ハ敵ノ斷見ハ不共言ニテ許サヌ故ニ宗ニ於テ已ニ所別不極ノ過アリ故ニ比例所知ノ因ニ所依不成ノ過ヲ犯ス若シ之ヲ生前死後ト云フトキハ生前ト云フ言モ死後ト云フ言モ敵ノ斷見ハ共言共許ナル故ニ比例所知ノ因ガ屹度有法ニ行キ渡ル依テ所依不成ノ過ナシ然ルニ本量ノ天祖遺勅

故ノ因ハ皇統可王ノ有法ニ行キ渡リテアレバ
所依不成ノ過ナシ已上ノ四過ヲ四不成ト云フ
皆十因ノ初相タル遍是宗法性ヲ闕ク過ニシテ
遍ハ即チ行キ渡ル義ナリ

○第五ニ共不定トハ已下六不定ノ第一ニシテ
凡ソ不定ノ過ハ能立ノ因ガ立者所立ノ宗ノ道
理ヲ顯サズ亦夕所立ニ相違スル宗ノ道理モ顯
サズ何レトモ定メテ成ズルコトガ出来ヌユエ
不定ト云フ但シ不定ハ具サニハ不定成一宗ト
云フコトニテ何レトモ定メテ一宗ヲ成ゼズト

云フコトナリ此ノ不定ハ三相ノ中後二相ヲ隨
一ニ闕ク過ナリ六不定中第一、第三、第四、第五ト
ハ第三相ノ異品徧無ヲ闕ク過ナリ第二ノ不共
ハ第二相ノ同品定有ヲ闕ク過ナリ第六ハ三相
ヲ具スド雖モ敵證ニ決智ヲ生ゼ令メザル故ニ
何レトモ定メテ一宗ヲ成ゼズ由テヤハリ不定
ニ攝スルナリサテ此ノ第五ノ共不定ハ能立ノ
因ガ宗同品ノ同喩ニモ干預シテ有リ宗異品ノ
異喩ニモ干預シテ有リ同異二喩ニ共ジテ有
ハ合スルコトナルユエ共ト云フ由テ三相中異
ナリ已下倣レ之

品徧無ノ第三相ヲ闕ク過ナリ九句因中ニテハ
第一ノ同品有異品有ノ句ニ當ル例セバ民有地
ノ寺院住職ガ政府ニ對シテ此寺院敷地我單有
宗有^方地券證故^因如餘單有耕地^同喻^如村社敷地
異喻ト立ツルトキハ地券證ノ因ガ餘ノ單有耕
地ノ同喻ニモ有リ又夕異喻ノ村社敷地ニモ有
ルナリ餘ノ單有耕地ハ地券證アリテ而モ單有
ナレドモ共有ニ非ズ村社敷地ノ如キハ地券證
有リト雖モ共有ニテ單有ニ非ズ然レバ有地券
證故ノ因ガ同異二喻ニ俱ニ有ニテ單有共有ノ

二地ニ共通シテアルユエ寺院ノ敷地ヲ立者ノ
樂為ノ如ク住職ノ單有ト定ノルコトモナラズ
又夕單有ニ相違セル共有ト定メルコトモナラ
ズ是ヲ共不定ノ過ト名ヅク即チ不定ノ作法ニ
云ク為^モ如同^キ喻餘單有之耕地有^カ地券證故寺院敷
地是住職單有乎^{ナキヤ}為^モ如^キ異喻村社敷地有^カ地券證故
寺院敷地是非住職單有乎ト云フコトニナリテ
地券證ノ因ガ動ク由テ住職ノ單有トモ單有ニ
非ズトモ片付クルコトガナラ又然ルニ本量ノ
天祖遺勅故ノ因ハ同喻ノ天壤ニ有ニシテ異喻

ノ夾碁ニ無ナル故ニ決定シテ皇統可王長不可
 變ノ宗ヲ成ズルコトヲウル故ニ共不定ノ過ナ
 シ由テ不定ノ作法ヲ為スベカラザルナリ
 ○第六ニ不共不定トハ六不定ノ第二ナリ能立
 ノ因ガ同異ニ喩ニ共ニ離レテ有ナラヌユエ不
 共ト云フ即チ共ニ有ナラヌユエ所立宗モ顯レ
 ズ又夕相違宗モ顯レザレバ不共不定ト云フ因
 ガ例喩ト更ニ合ヌ故ニ敵者ガ何事ヲ云フヤラ
 ト思ヒテ受ケ込ムコトガナラヌ是ハ猶豫ノ因
 ニハ違ヒナケレドモ原ト因ガ同喩ニ違スルヨ

リ起ルコトナレバ猶豫不成トハ異ナリ猶豫不
 成ハ宗ヨリ起ル過ナリ是ハ第一相ノ遍宗法ア
 ルユエ有法ト相望スレバ其義アリテ後陳ノ能
 別ヲ成ズル用キ更ニナキ因ナリ即チ後二相中
 第二ノ同品定有性ヲ闕ク過ナリ九句ノ中ニテ
 ハ第五ノ同品非有異品非有ノ句ニ當ル例セバ
 政府ガ農民ニ對シテ此耕地官有（九ノ宗）培養穀物（九ノ宗）故
 因如鎮臺敷地（同喩）如農商家具（異喩）ト立ツルガ
 如シ此ノ培養穀物ノ因ハ同喩ノ鎮臺敷地ニモ
 有ナラズ異喩ノ農商家具ニモ有ナラズ泛然夕

ル語ニシテ何レトモ定ムルコト能ハザルナリ
然ルニ此ノ因ヲ同喩ノ鎮臺敷地ニ屬スルトキ
ハ官有ノ宗ヲ成ジ異喩ノ農商家具ニ屬スルト
キハ官有ニ相違スル民有ノ宗ヲ成ズル通ジテ
官有民有ニ於テ何レカ一義ヲ成ズルコトアル
ベシ何レヲ成ズルト定ムルコトナラヌ故ニ不
共不定ト云フサテ此ノ不共不定ニハ作法ヲ造
ル義ト造ラザル義ト二説アリテ造ラザル義ヲ
正トスレドモ今マ且ク學者ノ智恵ヲ發セシ為
ニ之ヲ作法スレバ為如同喩鎮臺鋪地非培養穀

物而是官有此耕地既培養穀物即可言民有乎為
如異喩農商家具非培養穀物而是民有此耕地既
培養穀物即可言官有乎何レモ疑ヒテ不定ナ
ラシム由テ此ノ耕地ハ官有トスレバ官有トナ
リ民有トスレバ民有トナル是レ不定因ノ過ナ
リ然ルニ本量ノ如キ天祖遺勅故ノ因ハ同喩ノ
天壤ニ有ニシテ異喩ノ奕碁ニ非有ナル故ニ不
共不定ノ過ナシ由テ此ノ本量ニ於テ不定ノ作
法ヲ為スベカラズ
○第七ニ同品一分轉異品徧轉不定トハ六不定

ノ第三ニテ能立ノ因ガ同喩ノ法ニ一分ハ合シ
一分ハ合セズ異喩ノ法ニハ却テ全分合スル故
ニ所立ノ法ヲ決定シテ成バルコト能ハズ例セ
バ下民ガ政府ニ對シテ池沼可_レ為_ス無_ト稅_ト宗_ル有_ル地_カ券
證_ト故_ト因_ル如_シ墓_ト地_ト海_ト面_ト等_ト同_ト喩_ト如_シ耕_ト地_ト宅_ト地_ト異_ト喩_ト立
ツルガ如_シ此_ノ有_ル地_カ券_ト證_ト故_ト因_ハ同_ト喩_ノ一_ノ分_ト
タル墓地ニハ有_ルナレドモ一分タル海面ニハ有_ル
ナラズ却テ異喩ノ耕地宅地ニハ全分有_ルナリ此
ハ同喩ノ一分ニ有_ルナラヌ邊ハ過_ト成_ラズシテ
異喩ノ全分ニ有_ルナル邊ガ過_トナルナリ即チ三

相中第三ノ異品徧無_ラ闕_ク故ニ作法スレバ為_シ
如_キ同_ト喩_ノ之_ノ墓_ト地_ト有_ル地_カ券_ト證_ト故_ト池_ト沼_ト是_レ可_レ為_ス無_ト稅_ト乎_ト為_シ
如_キ異_ト喩_ノ之_ノ耕_ト地_ト宅_ト地_ト有_ル地_カ券_ト證_ト故_ト池_ト沼_ト是_レ非_レ可_レ為_ス無_ト稅_ト乎_ト有_ル稅_ト
トモ定_メラレヌコトニナル由_テ不定ノ過_トナ
ル此ハ九句中ニテハ第七ノ同品有_ル非_有異_品有_ル
ノ句ニ當_ル本_量ノ如_キハ然_ラズ天_祖遺_勅故_ノ
因_ハ同_ト喩_ノ天_壤ニ有_ルニシテ異_ト喩_ノ夾_基ニ無_ナ
ル故ニ後ニ相_ヲ具_シテア_レハ如_キ是_レ不定ノ作法
ヲナスベカラズ

○第八ニ異品一分轉同品徧轉不定トハ六不定ノ第四ニテ能立ノ因ガ異喩ノ一分ニ有ニシテ一分ニ有ナラズ同喩ノ法ニハ全分有ナリ即チ異喩ノ法ニ一分有ナル邊ガ過トナリテ決定シテ宗ヲ成ズルコト能ハズ此ハ三相中ノ第三ノ異品徧無ヲ闕ク過ニテ九句中デハ第三ノ同品有異品有非有ノ句ニ當ル例セバ政府ヨリ下民ニ對シテ山林課租稅宗有收獲故因如耕地同喩如不毛地河池海異喩ト立ツルガ如シ此ノ有收獲ノ因ヲ同喩ノ耕地ニ望メルニ全ク有ナリ異

喩ニ望メルニ不毛地ノ一分ニハ有ナラザレドモ河池海ノ一分ニハ有ナリ河池海ノ一分ニ有ナル邊ガ過トナル即チ不定ノ作法ニ云ク為如同喩耕地有收獲故山林可課租稅乎為如異喩河池海有收獲故山林不可課租稅乎ト云フ過アリテ山林ハ租稅ヲ課スベキカ課スベカラザルカ定メガ付カヌコトニナル然ルニ本量ニ舉グル天祖遺勅ノ因ハ一分モ異喩ノ乘基ニ有ナラヌ故ニ不定ノ過ナシ

○第九ニ俱品一分轉不定トハ六不定ノ第五ニ

テ同異二喻共ニ一分ヅ、因ガ有ナルヲ云フ然
ルニ同喻ノ一分ニ非有ナル邊ハ過トナラズ異
喻ノ一分ニ有ナル邊ヨリ不定ノ過トナル即チ
三相ノ中第三ノ異品徧無ヲ闕ク過ニテ九句ノ
中デハ第九ノ同品有非有異品有非有ノ句ニ當
ル其例ヲ示サバ皇國上等ノ都會ト云ヘバ三府
ニ止マルコトハ世間一般共許スル所ナルニ愛
知縣ノ人ガ他縣ノ人ニ對シテ愛知皇國上等都
會スミヤカ有鎮臺故ニ因如三府同喻如餘處異喻ト立ツ
ルガ如シ此ノ鎮臺ノ因ガ同喻ノ三府ニモ一分

有ニシテ一分有ナラズイカナレバ西京ノ如キ
ハ三府ノ中ナレドモ鎮臺ハ無ケレバナリ又夕
異喻ノ餘處ニモ一分有ニシテ一分有ナラズイ
カナレバ廣島等ノ如キハ三府ニ非ザル餘處ナ
レドモ鎮臺ハ有レバナリ然レドモ西京ハモト
ヨリ皇國上等ノ都會ト云フベクシテ廣島等ハ
皇國上等ノ都會ト云フベカラズ故ニ同喻ノ三
府ニ攝スル西京ニ鎮臺ノ因ガ有ナラスノハ過
トナサズ異喻ノ餘處ノ廣島ニ鎮臺ノ因ガ有ナ
ル邊ヲ過トナス由テ為モシ如同喻三府中東京大坂

有鎮臺故愛知是皇國上等都會乎為如異喻餘處
中廣島等有鎮臺故愛知是非皇國上等都會乎ト
云フ不定ノ作法トナル然ルニ本量ノ如キ天祖
遺勅故ノ因ハ同喻ノ天壤ニ全有ニシテ異喻ノ
奕碁ニ全無ナリ乃チ異喻ノ奕碁ニ一分モ有ナ
ラザル故ニ此ノ過ナシ

○第十二相違決定トハ六不定ノ第六ニテ又ハ
決定相違トモ云フ相違決定ト云フトキハ相違
ノ宗ヲ決定セシムルト云フコトニテ相違トハ
宗ナリ決定トハ因ナリ宗ヲ相違ト云フハ前宗

ハ後宗ニ相違シ後宗ハ前宗ニ相違ス前ニ立者
ガ後宗ニ相違スル所立ノ宗ニテモ因喻ニテ成
ジテ道理ガ決定シテ聞エ後ニ敵者ガ前宗ニ相
違スル所立ノ宗ニテモ因喻ニテ成ジテ道理ガ
決定シテ聞エルナリ由テ相違ノ宗ニ決定ノ因
トナルト云フ義ニテ相違決定ト云フ畧シテハ
違決トモ云フ又夕決定相違ト云フトキハ決定
シテ相違セシムルト云フコトニテヤハリ決定
ハ因ニ付キ相違ハ宗ニ付ク立者前量ノ因ヨリ
見レバ敵者ノ宗ガ聞エズ敵者後量ノ因ヨリ見

レバ立者ノ宗ガ聞エズ立敵各據一義ニシテ何
レトモ片付カザルユエ三相ハ具スレドモ猶豫
ノ因トナリテ決智ヲ生ズルコト能ハズ然レバ
兩方ノ因ガ互ニ兩方ノ宗ニ望メレバ俱ニ宗ノ
道理ガ聞エヌコトニナレバ前後俱邪ノ因ト云
フ世間ニ所謂水臧ケ論ト云フガ如キモノナリ
例セバ父ガ子ニ向テ如汝不孝者不可謂人_宗不
孝_{畜生}所行故_因猶如_{畜生}同喻猶如_{孝子}異喻又
夕子ガ父ニ對シテ縱_レ不孝者_モ亦可謂_レ人_宗具_ス人_之
五體_故因猶如_{餘人}同喻猶如_{畜生}異喻○無過ト
ハ云フベカラ

ザレドモ且ク作コレ父ヨリ云ヘバ不孝ハ畜生
法ヲ示スノミ
ノ所行ユエニ畜生ノ如ク人ト謂フベカラズト
云フコトニナル又夕子ヨリ云ヘバ人ノ五體ヲ
具スルユエニ餘人ノ如ク不孝者モ亦夕人ト謂
フベキコトニナルコレ相違ノ宗ヲ決定シテ成
ズル義ナリ又夕不孝畜生所行故ノ前因ヲ後宗
ノ不孝者亦可謂人ノ宗ニ望メルトキハ不孝者
ヲモ亦夕人ト謂フベシト云フ道理ガ聞エズ又
夕具人之五體故ノ後因ヲ前宗ノ不孝者不可謂
人ノ宗ニ望メレバ不孝者ハ人ト謂ハレヌト云

フ道理ガ聞エヌコトニナル是レ決定シテ後因
ガ前宗ヲ相違セシメ前因ガ後宗ヲ相違セシム
ルコトニナル決定相違ノ義ナリ由テ各據一義
ノ水掛ケ論ト成リテ決定シテ一宗ヲ成ズルコ
ト能ハズ故ニ不定ノ過トナル然ルニ本量ノ天
祖遺勅故ノ因ハ立敵共許シテ皇統可王長不可
變ノ宗ニ有ニシテ三相具足シ而モ敵論者ヲシ
テタシカニ皇統可王ハ長不可變ト云フ決智ヲ
生ズレバ各據一義ノ水掛ケ論トハナラズ由テ
相違決定ノ過ナシ已上ハ六不定ノ過ナリ

○第十一ニ法自相相違因トハ四相違因ノ第一
ニシテ此ノ四相違因ハ因ノ三相中第一相ノ徧
是宗法ハ闕カザレドモ後二相ヲ闕キテ有ナル
ベキ同喩ニ却テ無ニシテ無ナルベキ異喩ニ却
テ有ナルハ皆ナ相違因ノ過ナリ此ノ相違因ノ
釋名ニ就キテ之因ト即因トノ異義アリ即因ノ
義ニテハ能立ノ因體ガ所立ノ宗義ニ相違スト
云フ義ニテ相違トハ因ヲ指ス相違即因ノ持業
釋ナリ又タ之因ノ義デハ今マ正ク立セント欲
スル樂為宗ト相違スル別異ノ宗ノ為ニ因トナ

ル由テ相違ハ宗ヲ指ス相違之因ノ別體ノ依主
釋ナリ此ノ之因ノ義ヲ正トスサテ法自相ノ法
ハ有法法ノ法ニシテ後陳能別ヲ指ス自相トハ
前陳ノ有法ト後陳ノ法トニ各各言陳ト意許ト
アリ言陳トハ言ノ上ニ陳ブルコトナリ意許ト
ハ意ノ内ニ許スコトナリ其ノ言陳ヲ自相ト云
ヒ意許ヲ差別ト云フ此レ因明ニ局ル一箇ノ名
目ナリ如此法ニモ言陳自相ト意許差別ト分レ
有法ニモ言陳自相ト意許差別ト分ル由テ法自
相相違因、法差別相違因、有法自相相違因、有法差

別相違因ノ四相違因トナル前ニ出ス比量相違
ト相違決定ト此ノ四相違因ト相似テ同ジカラ
ズソノ故ハ比量相違ハ前宗ガ後因ニ違スル前
那後正ナリ相違決定ハ前因ガ後宗ニ違シ後因
ガ前宗ヲ違スル前後俱那ニシテ前因ヲ改ムル
ヲ法トス今マ四相違因ハ後宗ガ前宗ヲ違シ前
那後正ニシテ前因ヲ改メザルヲ法トス畢竟彼
ガ因故ヲ以テ彼ガ宗義ヲ破碎スル者ニシテ所
謂敵ノ馬ニ乘リテ敵ヲ追ヒ又夕敵ノ持チタル
棒ニテ敵ヲ打ツト云フ妙法ナリ然レドモ喩ハ

改ト不改トニ通ズ就中此ノ法自相相違因ハ所
違ノ量ハ斷見ガ佛者ニ對シテ人之生前死後應
必無^ル宗 比例所知故 因猶如龜毛 同喻猶如昨日明
日 異喻ト立ツルガ如シ此ノ比例所知ノ因ガ所
立宗ノ人之生前死後ノ有法ニハ有ニシテ第一
相ハ闕カザレドモ須ク有ナルベキ同喻ノ龜毛
ニ無ニシテ須ク無ナルベキ異喻ノ昨日明日ニ
有ナリ昨日明日ハ比例スルニ應ニ必ズ有ナル
ベキ者ト衆人ノ許ス所ナリ此レ後ニ相ヲ闕ク
由テ敵ノ佛者が立^ル斷見ノ用ヒタル因ヲ改メ

ズ喻ヲ相改メテ斷見ノ立ツル應必無ノ宗ニ相
違シテ人之生前死後應必有^ル宗 比例所知故 因猶
如昨日明日 同喻猶如龜毛 異喻ト立ツルトキハ
此ノ因ニ三相具足シテ前量ノ斷見ノ所立ヲ破
シ遂ダ^ル正因トナル而モ前因ヲ改メザル法ニ
モ背カズ又夕前邪後正ノ法ニモ背カズ正シキ
法自相相違ノ能違ノ量ノ因トナル然ルニ本量
ノ天祖遺勅故ノ因ハ三相具足ノ正因ナル故ニ
此ノ法自相相違ノ過ナシ由テ能違ノ量ノ因ト
為スベカラズ

○第十二ニ法差別相違因トハ法ハ前ニ示ス如ク所立宗ノ能別ノ法ナリ差別ハ能別ノ法ノ言ニハ秘シテ陳セ子ドモ密ニ意内ニ許ス所ナリ能立ノ因ノ義分ガ法自相ノ言ニハ順ズレドモ意内ノ所許ニ望ノレバ順ゼズ却テ意内ニ許サザル邊ニ順ジテ法自相ノ上ノ意許ト筋違ヒニナルヲ法差別相違因ト云フ例セバ今マ究理家ガ教法家ニ對シテ明教新誌有^ル世益宗掲載^ス教法要事故因猶如社寺局布告同喻猶如藝娼妓艷書異喻○無過トハ云フベカラザト立ツルガ如シ

此ノ究理家ノ舉グル掲載教法要事故ノ因ヲ以テ明教新誌有世益ノ宗ニ望メルニ一應ハ法自相ノ有世益ノ能別ニ順ズルニ似タレドモ再應考索スレバ原ト究理家ナルガ故ニ教法ハ篤信セズト見做サミル可カラズ然ルニ明教新誌ハ世益有リト云フニハ何カ包藏スル所アルベシト試ニソノ意許ヲ探リ見ルニ明教新誌ハ世益無キニハ非ザレドモ究理家ニ取レバ日々朝野時事報知等ノ新聞ガ世益多クシテ明教ハ世益少シト云フ意許ニ違ヒナシ又夕同異ニ喻ヲ考

索スレバ同喻ノ社寺局ノ布告ハ世益多キ者ナ
リ異喻ノ藝娼妓ノ艶書ハ世益少キ者ナリ由テ
此ノ因喻ヲ其ノ儘用ヒテ究理家ノ意許ノ明教
新誌ハ世益少シト云フ意許ニ相違シタル能違
ノ明教新誌ハ世益多シノ宗ヲ立セント欲ス其
ノ立量作法ニ云ク明教新誌世益多宗掲載法教法
要事故因猶如社寺局布告同喻猶如藝娼妓艶書
異喻此ノ能違ノ量ノ掲載教法要事ノ因ハ三相
具足シテ究理家ノ明教新誌有世益ノ法自相ノ
言陳ヲ成立スル如ク法自相ノ言下ノ意ニ許ス

世益少ニ相違シタル世益多ニ能ク因下ナルコ
トヲ得ルナリ是ヲ法差別相違因ト云フ然ルニ
本量ノ如キ天祖遺勅故ノ因ハ長不可變ノ法自
相ノ下ニアル意許ニ相違シタル能違ノ宗ニ因
ト成ルト云フコトナケレバ法差別相違因ノ過
ナシ

○第十三ニ有法自相相違因ハ第十四ノ一過ト
共ニ過相幽邃ニシテ解シ難ケレドモ且ク辨釋
セバ有法ハ所立宗ノ所別ナリ自相ハ言ニ陳說
スル有法ナリ能立ノ因ガ言ニ陳說セシ有法ト

筋違ヒニ成リテ同喩ガ異喩ニ成ルヲ云フ例セ
バ西洋人が佛者ニ對シテ大陽非執天宮宗有熱
性故因猶如竈火同喩猶如井水異喩ト立ツルガ
如シ能違ノ量ニ云ク大陽可非火聚大陽宗有熱
性故因猶如竈火同喩猶如井水異喩立者ノ洋人
ハ大陽ハ火聚ナリト云フ宗義ナレドモソレヲ
矯立シテ執スル天宮ニ非ザルベシト云ヘバ自
ラ火聚ト云フ義ガ成ズル故ニ矯立シテ非執天
宮ト云フ由テ此ノ非執天宮ノ能別ヨリ有法ノ
大陽ト云フ言陳ノ下ノ意許ヲ探リテ見レバ洋

人ハ大陽ハ火聚ト云フ義ナリ然ルニ有熱性故
ノ因ト如竈火ト云フ同喩ト如井水ト云フ異喩
トヲ考フルニ竈火ハ現ニ熱性アル者ナリ井水
ハ現ニ熱性アル者ニ非ズ由テ同有異無ニシテ
後ニ相ヲ闕カザルニ似タレドモ熟思スルニ今
ハ大陽ノ體ヲ諍フ量ナルガ故ニ諍フ所ノ大陽
ノ體ニ望マセテ見レバ竈火ハ竈火ニシテ大陽
ニ非ザル故ニ竈火ノ同喩ハ轉シテ宗異品トナ
リ而モ有熱性故ノ因ハ彼ニ轉シテ異有同無ナ
レバ後ニ相ヲ闕キテ有法自相相違ノ過ヲ成ズ

ルナリ由テ同異喻ヲ改メズシテ直ニ有法ノ大
陽ノ言陳ヲ難シ能違ノ量ヲ作りテ大陽北非北火聚
大陽宗有カ熱性故因猶如竈火同喻猶如井水異喻
ト云フトキハ此ノ能違ノ量ガ三相具足ノ正因
トナル即チ前邪後正ノ法ニ負カズ然ルニ大陽
ハ火聚ノ大陽ニ非ズト云ヘバ忽チ自語相違ニ
似タレドモ前ニ立者ガ大陽非執天宮ト云フヲ
破シテ而モ大陽ノ體ヲ非スル故ニ自語相違ノ
過ナシ前ノ法自相違ト法差別相違トハ宗ノ
義ヲ非スル量ナリ今ノ有法自相ト次ノ有法差

別トハ有法ノ體ヲ非スル量ナリ或ハ問フ大陽
ノ體ヲ諍フトキハ何者ヲ同喻トスレバ有法自
相相違ノ過ナキヤ答テ曰ク大陽ノ義ヲ諍フト
キハ同喻アレドモ體ヲ諍フトキハ天地間ニ一
物トシテ同喻ト為スベキ者ナシ然ルニ本量ノ
如キハ皇統ノ體ヲ諍フニ非ザル故ニ更ニ此ノ
關係ナシ

○第十四ニ有法差別相違因トハ有法ハ宗中前
陳ノ所別ナリ差別ハ所別ノ有法上ニ言ニハ陳
セ子ドモ意内ニ許ス所ナリ例セバ國學者ガ西

洋人ニ對シテ日輪不可廢宗 必要火聚因 故如 竈
火同 喻如 家父異 喻ト 立ツルガ如シ此ノ不可廢
ノ能別ヨリ日輪ノ有法自相ヲ考フルニ國學者
ノ意許ハ日輪ハ必要ノ火聚ニシテ皇太神ノ尊
體トモ申ス程ノコトナレバ必ズ崇敬スベシト
云フ意許ナリ然ルニ同喻ノ竈火ハ必要ノ火聚
ナレドモ崇敬スベキ者ニ非ズ又夕異喻ノ家父
ハ崇敬スベキ者ナリ由テ此ノ必要火聚ノ因ハ
言ノ上ハ同喻ノ竈火ニ有ニシテ異喻ノ家父ニ
無ナレバ後ニ相具足スルニ似タレドモ日輪ハ

崇敬スベシト云フ有法ノ意許差別ヨリ探リテ
同喻ノ竈火ヲ以テ意許差別ノ宗ニ望メルニ竈
火ハ崇敬スベキ者ニ非ザレバ宗同品ノ義ヲ闕
キテ宗異品トナル其ノ宗異品ノ竈火ニ有ナル
必要火聚ノ因ナレバ此ノ因ガ彼ニ轉ジテ同無
異有闕後ニ相ニシテ有法差別相違ノ過ヲ成ズ
然ルニ敵ノ洋人ハ日輪ハ世界ノ暗ヲ照ス大火
聚ナレバ別ニ崇敬スベキ者ニ非ズト云フ所立
ヨリ立ノ國學者ニ對シテ違他順自シテ能違ノ
立量ニ日輪ハ 非可 崇敬者 宗 必要火聚故 因 如竈 火

同喻 如家父 異喻 ト云フトキハ三相具足ノ正因
ト成リテ能ク國學者ノ可崇敬ノ意許差別ノ宗
ヲ破碎スルコトヲ得ル所ノ真能破ト成ル然ル
ニ本量ノ如キハ有法ノ皇統可王ノ言陳ニ方便
矯立ノ別意許ナシ故ニ此等ノ過ニ關係ナシ此
ノ後三相違ハ微々細々ノ過ニシテ陳那論師ガ
數勝二論ノ宗義ヲ破斥センガ為ニ考立發揮シ
給ヒシナレバ現今世間ニ於テ多分此ノ如キ微
細ノ諍ヒナシ今ハ唯ダ活用ノ為ニ例量ヲ出シ
テ作法ヲ顯ス然ルニ此等ノ量必ズシモ盡理ニ

ハ非ザルベケレドモ且ク其ノ作法ノ方隅ヲ知
ルニ便ナラ令ル耳又ク此ノ相違因ニハ具サニ
十五因アリテ一因違一、一因違二、一因違三、一因
違四等ノ作法アレドモ且ク一因違一ノ作法ヲ
示ス耳

第十一章 似喻十過

似喻ノ十過トハ一ニ能立法不成二ニ所立法不
成三ニ俱不成四ニ無合五ニ倒合六ニ所立法不
遣七ニ能立法不遣八ニ俱不遣九ニ不離十ニ倒
離ナリ就中初ノ五ハ似同喻ノ過ナリ後ノ五ハ

似異喩ノ過ナリ

○第一ニ能立法不成トハ能立法ハ即チ因ニシテ同喩ガ因ノ義ニ准ゼザルヲ不成ト云フ全體同喩ハ能立ノ因ト所立ノ宗トヲ貫キ其ノ義ノ是非ヲ見スルヲ功能トスルニ宗因ノ義ニ關係セザレバ不成ノ過トナルナリ此ニ謂フ所ハ能立ノ因法ヲ成ゼザル過ナリ例セバ佛者ガ斷見ニ對シテ人魂應不斷滅宗無形質故因猶如空氣同喩此ノ同喩ノ空氣ハ有形質ニシテ永世斷滅セザル者ユエニ所立ノ應不斷滅ハ成バレドモ

能立法ノ無形質ノ因ヲ成ゼバ故ニ能立法不成ノ過アリ然ルニ本量ノ如キ同喩ノ天壤ハ能立法ノ天祖遺勅故ノ因ニ干預スル故ニ此ノ不成ノ過ナシ

○第二ニ所立法不成トハ所立法ハ所立宗ノ中ノ後陳ノ能別ノ正所諍ノ場所ヲ云フ此ノ不成過ハ同喩ガ能立ノ因ニハ合スレドモ所立法ノ能別ノ宗ニ合セヌヲ以テ過トナル例セバ佛者ガ斷見ニ對シテ人魂應不斷滅宗無形質故因猶如喜怒哀樂同喩ト立ツルトキ同喩ノ喜怒哀樂

ハ無形質ニシテ斷滅ノ者ユエニ能立法ノ因ノ
 無形質ニハ合スレドモ所立法ノ能別ノ應不斷
 滅ニ合セ又故ニ所立法不成ノ過アリ然ルニ本
 量ノ如キハ天壤ノ同喩不可變ノ所立法ニ合ス
 ル故ニ更ニ此ノ過ナシ、
 ○第三ニ俱不成トハ因喩ガ所立ノ宗ト能立ノ
 因ト俱ニ合セ又ヲ云フ例セバ佛者が斷見ニ對
 シテ人魂應不斷滅宗無形質故因如燈火同喩ト
 立ツルトキ同喩ノ燈火ハ有形質ニシテ而モ斷
 滅ノ者ユエニ能立ノ無形質ノ因モ所立ノ應不

斷滅ノ宗モ俱ニ成ズルコト能ハズ故ニ俱不成
 ノ過トナル然ルニ本量ノ如キハ天壤ノ同喩ハ
 所立法ノ長不可變ト能立法ノ天祖遺勅故ト俱
 ニ合スル故ニ此ノ過ナシ
 ○第四ニ無合トハ法ニ於テ因ト宗トヲ合屬シ
 テ顯ハスベキヲ唯ダ喩依ヲ陳ベ因ト宗トノ義
 ヲ並顯スルバカリニテ諸皆ト云ヒテ合屬セザ
 ル過ヲ云フ無合トハ即チ合屬ノ作法ナシト云
 フコトナリ今マ本量ヲ以テ之ヲ例セバ諸天祖
 遺勅者皆見長不可變譬如天壤ト云フガ如ク合

屬ノ作法ナキヲ云フ此ノ合屬ノ作法ナキトキ
ハ同喩タル天壤ノ上ニ能立タル天祖遺勅故ト
所立タル長不可變トヲ現ズルバカリニテ皇統
可王ノ上ニ天祖遺勅ナルガ故ニ天壤ノ如ク長
不可變ト云フ義宗ヲ現ハスコトヲ知ラズ即チ
母牛ノ在ル所ニハ犢子必ズ隨フ如ク天祖遺勅
故ノ因ニハ長不可變ト云フ宗ハ必ズ隨フト云
フコトヲ證明スルコト能ハザル過ナリ
○第五ニ倒合トハ此ハ因ト宗トノ義ヲ合屬シ
タレドモ顛倒シテ合シタル過ヲ云フ凡ソ同喩

ハ立者ノ義分ニ准ズルヤウニ見スル為ナレバ
先因後宗ト云ヒテ先キニ能立ノ因ノ義ニ合シ
後ニ所立ノ宗ノ義ニ合シテ如是ノ理由ユエニ
如是ノ道理ニ成ルト顯スベキヲ今マ及テ先宗
後因トナリテ先キニ宗義ニ合シ後ニ因ノ義ニ
合スレバ合屬ノ作法ガ顛倒ニ成ルユエ倒合ノ
過トナル今マ本量ヲ以テ之ヲ例セバ諸天祖遺
勅者皆見長不可變ト先因後宗ニ合スベキヲ顛
倒シテ諸長不可變者皆見天祖遺勅ト倒マニ合
屬スルガ如キナリ是ニ二失アリ一ハ不樂為ノ

天祖遺勅ノ宗ヲ成ズル故ニ天祖遺勅ノ宗ニ相
符アリニハ敵ノ共和論師ハ皇統可王ノ長不可
變ヲ許ササル故ニ長不可變ノ因ニ他隨一不成
ノ過アリ已上ハ似同喩ノ五過ナリ此ノ似同喩
ニモ具サニハ五過ノ中前ノ三不成ニ兩俱隨一
猶豫所依ノ四アリテ三十四過ト成ル其ノ上
ニ無合、倒合ノ二過ヲ加ヘテ十四過トナル今ハ
前ノ三不成ヲ唯ダ兩俱ニ就キテ示ス
○第六ニ所立法不遣トハコノ已下ハ似異喩ノ
五過ナリサテ所立法不遣トハ異喩ノ功能ハ立

者ノ所立ニ反セシ者ハ其ノ所立ノ義ニ關係ス
ベキ道理ナキコトヲ顯ハシテ紛レヌヤウニス
ル者ナレバ所立ノ義ニ離ル、ヤウニ見スルヲ
遣ト云フ遣ハ遮遣ノ義ナリ故ニ遮遣スルコト
能ハザルヲ不遣ト云フ以下皆例セバ佛者が斷
能ハザルヲ不遣ト云フ
見ニ對シテ人魂應不斷滅宗無形質故因如神靈
同喩如空氣異喩ト立ツルトキ異喩ノ空氣ハ不
斷滅ノ者ユエニ所立ノ不斷滅ヲ遮遣スルコト
能ハズシテ所立法不遣ノ過トナル然ルニ本量
ノ如キハ異喩ノ奕碁ハ易置自在ニシテ幾度モ

改變スベキ者ユエニ所立ノ長不可變ヲ能ク遮
遣シテ離スルコトヲ得ル由テ此ノ過ヲ離ル
○第七ニ能立法不遣トハ異喩法ノ義分が能立
ノ因ニ合シテ離レヌヲ云フ例セバ佛者が斷見
ニ對シテ人魂應不斷滅宗無形質故因如神靈同
如喜怒愛樂異喩ト立ツルトキ異喩ノ喜怒愛
樂ハ能立ノ無形質故ニ合シテ離レザル故ニ能
立ノ因ヲ遮遣スルコト能ハズ然ルニ本量ノ如
キハ奕碁ハ天祖遺勅アルニ非ザレバ奕碁ノ異
喩能ク天祖遺勅故ノ因ヲ離レ遮遣スルコトヲ

得ル故ニ此ノ過ナシ

○第八ニ俱不遣トハ異喩法ノ義分が所立ノ宗
ト能立ノ因トノ義分ニ關係シテ離レザルヲ云
フ例セバ佛者が斷見ニ對シテ人魂應不斷滅宗
無形質故因ト云ヒテ神靈ヲ異喩ニ擧グルトキ
此ノ異喩ノ神靈ハ能立ノ因ノ無形質モ所立ノ
宗ノ不斷滅モ遮遣スルコト能ハズシテ俱不遣
ノ過トナル然ルニ今マ本量ノ如キハ異喩ノ奕
碁能ク能立ノ天祖遺勅故モ所立ノ長不可變モ
遮遣スルコトヲ得ル故ニ此ノ過ナシ

○第九ニ不離トハ凡ソ異喩ハ此ノ道理ニアラ
 又者ハ此ノ所以ナシト宗ト因トノ義ヲ連續シ
 テ諸皆ノ二字ヲ加ヘテ裏カラ反説シテ宗因ヲ
 離シテ見セル道具ナリ故ニ之ヲ離スルコト能
 ハザルヲ不離ト云フ今マ本量ヲ以テ云ヘバ諸
 可變者皆見非天祖遺勅猶如奕碁等ト云フ是レ
 離作法ナリ然ルニ此ノ不離ノ過ハタミ奕碁ノ
 如ク可變ノ者ト見ヨ非天祖遺勅ト見ヨト宗ト
 因トノ義ヲ竝ベタバカリニシテ合屬シテ離ス
 ルコト能ハザル故ニ裏ヨリ宗ヲ成ズルコトガ

出來ズシテ此ノ過トナル

○第十ニ倒離トハ凡ソ異喩ハ所立ニ濫ヲ止ム
 ルガ功能ナレバ今マ本量ヲ以テ之ヲ云ハバ諸
 可變者皆見非天祖遺勅ト云ヒテ宗因合屬シテ
 先宗後因ニ離スベキヲ諸非天祖遺勅者皆見可
 變ト合屬シテ離スルハ離シタレドモ先宗後因
 ヲ顛倒シテ先因後宗ニ離スルヲ倒離ト云フ如
 此倒マニ離作法スルトキハ因ノ濫ヲ遮スルニ
 非ザル過アリサテ此ノ似異喩五過中前ノ三不
 遺ニ具サニハ兩俱等ノ四アリテ三四十二過ト

成ル其ノ上ニ不離倒離ノ二過ヲ加ヘテ十四過ト成ル然ルニ今ハ前ノ三不遣ヲ唯ダ兩俱ニ就キテ示ス耳已上同異二喩ノ十過畢此如此似能立ニ三十三過ヲ立ツレドモ微細ニ分別セバ似宗ニ付キテ惣計二千三百四種ノ四句アリ似因ニ就キテモ不成ニ二十七アリ不定ニ五十四アリ相違ニ一百三十五アリ又夕一重微細ニ分チテ不成ノ二十七ニ自他共ノ九ノ比量ヲ兼ズルトキハ二百四十三種ト成ル次ニ不定ノ五十四ニ不成ノ二十七ヲ兼ズレバ一千四百五十八種

ト成ル後ノ相違ノ一百三十五ニ不成ノ二十七ヲ兼ズレバ三千六百四十五種ト成ル惣計五千三百四十六種ノ數ヲ成ズ似喩ニ就キテ同異ノ二喩合シテ二十八アリ是ニ自他共ノ九ヲ兼ズレバ二百零二種ト成ル宗因喩合計七千八百五十二種ノ過相ヲ成ジテ甚ダ容易ナラズ其ノ詳ナルハ大疏等ニ就キテ研精スベシ總ジテ此等ノ過相ナキヲ無過ノ真比量ト云フ

第十二章 十四過類

上ノ三十三過ハ似能立ノ過類ナリ今ノ十四過

類ハ似能破ノ過類ナリ具サニハ十四相似過類
 ヲ云フ其ノ少ナル者ハ無量ナレドモ大ナル者
 ハ唯ダ十四ニ過ギズ故ニ釋論云此過類由カ但由少
 分方便異故建立無邊差別過類是故不說此ノ過
 類ハ立ノ本量ハ無過圓滿ノ真量ナルニ之ヲ迷
 惑セシメシガ為ニ妄ニ破斥ヲ加フル能破ノ似
 セ者ナリ若シ本量有過ナレバ能破ハ似ナレド
 モ過類ト名ヅケズ過類ト名ヅケズバ云何が名
 ズクルヤト云フニ所破モ似能立能破モ似能破
 ノトキハ因明立破ノ規則外ナレバ醉人ノ調語

スル如クニテ別ニ名ノ附ケ様モナシサテ其ノ
 十四過類トハ一ニ同法相似過類二ニ異法相似
 過類三ニ分別相似過類四ニ無異相似過類五ニ
 可得相似過類六ニ猶豫相似過類七ニ義准相似
 過類八ニ至非至相似過類九ニ無因相似過類十
 ニ無說相似過類十一ニ無生相似過類十二ニ所
 作相似過類十三ニ生過相似過類十四ニ常住相
 似過類ナリ此ノ十四過類ハ多分ハ足目仙人ノ
 說ニ依テ陳那論師ノ立テ給フ所ナリ畧頌ニ云
 ク同異分無異可得猶義至無因說無生所作生常

住ト

○第一ニ同法相似過類トハ相似過類ハ相似即
 過類ニシテ能破ニ就キテ似ナルモノヲ正ナル
 ガ如ク舉グル所ヲ即チ過類ト名ヅク又夕同法
 トハ同喩ノコトニシテ異喩ヲ同喩トシテ妄ニ
 真量ヲ破ス似能破ヲ云フ例セバ本量ニ皇統可
 王長不可變宗天祖遺勅因如天壤同喩ト立テ
 テ天祖遺勅ノ因ト天壤ノ同喩トヲ以テ皇統可
 王長不可變ノ宗ヲ成ズルヲ敵ノ共和論師ガ之
 ヲ破シテ我國皇統可王可變宗萬國無比因如

舊藩同喩

ト立ツル類ナリ此ノ論師ノ立意ニ二
 アリ其一ハ本量ニ共不定ノ過アルコトヲ顯サ
 ント欲ス謂ク我國ノ皇統可王ハ舊藩ノ如ク萬
 國無比ノ故ニ可變トヤセン我國ノ皇統可王ハ
 天壤ノ如ク天祖遺勅ノ故ニ長不可變トヤセン
 ト然レドモ此ノ論師ノ共不定トスル所ハ似不
 定ニシテ真ノ不定ニ非ズ云何トナレバ真ノ不
 定ハ必ズ本因ヲ以テ同異品ニ望マセテ有ナル
 トキハ真不定トス今マ論師ガ天祖遺勅ノ因ノ
 外ニ別ニ萬國無比ノ因ヲ立テ、異品ノ舊藩ニ

於テ有トス由テ似共不定トスルナリ其ニハ本
量ニ相違決定ノ過アルコトヲ顯サント欲ス謂
ク汝ハ天祖遺勅ノ因ヲ以テ皇統可王ハ不可變
ヲ成ズト雖モ我ハ亦ク萬國無比ノ因ヲ以テ皇
統可王ハ可變ヲ成ズ然レバニ論牛角ニシテ所
謂水掛ケ論ナリ故ニ汝ガ天祖遺勅ノ因ニハ相
違決定ノ過アリト然レドモ此レ亦夕似ノ相違
決定ナリ云何トナレバ相違決定ハ必ズ三相具
足ノ定因ナリ今マ萬國無比ノ因ハ不定ノ過ア
リテ三相具足ノ定因ニ非ズ即チ舊藩ノ如キ萬

國無比ノ故ニ我國ノ皇統可王ハ可變トヤセン
天祖ノ如キ萬國無比ノ故ニ我國ノ皇統可王ハ
長不可變トヤセント云フ不定アリ如此不定ノ
過アル量ヲ以テ異喩ノ舊藩ヲ同喩トシテ妄ニ
無過ノ真量ヲ破セント欲ス故ニ相似過類ニ墮
シテ真能破ヲ成ゼズ故ニ尊王論師ヨリ返破シ
テ我ハ天祖ノ遺勅ヲ以テ皇統可王ハ長不可變
ヲ證ス天祖ノ遺勅ナケレバ長不可變ニ非ズ汝
ハ萬國無比ヲ以テ皇統可王ハ可變ヲ證ス然ル
ニ此ノ因ニ不定アリ天祖モ萬國無比ナレバ亦

夕是レ可變ナルベキヤト云へバ論師ノ論窮シ
テ相似過類トナルナリ

○第二ニ異法相似過類トハ前ノ同法相似過類
ハ異喻ヲ同喻ニ用フル過類ナリ此ハ同喻ヲ異
喻ニ用フル過類ナリ共和論師本量ヲ破シテ云
ク我國皇統可王_ハ可變_ス宗_ヲ萬國無比故_ニ因_テ諸不可變_ル
者_ハ皆見_ル非_ズ萬國無比譬如_ハ天壤_ノコノ立意ニ二種_{アリ}
ルコト前ノ同法相似ノ如シ此ノ萬國無比ノ因
ニ不定アルコト亦夕前ノ同法相似ノ如シ尊王
論師云ク舊藩ハ是レ可變ニシテ天祖ノ遺勅ア

ルニ非ズ皇統可王ハ則チ是レ天祖ノ遺勅アレ
バ定マリテ不可變ナリ天壤ハ天祖ノ遺勅アリ
テ不可變ナリ皇統可王モ亦夕天祖ノ遺勅アレ
バ何ゾ可變ナルベキト共和論師之ヲ破シテ云
ク今マ舊藩ハ是レ可變ニシテ天祖ノ遺勅アル
ニ非ズ皇統可王ハ天祖ノ遺勅アレバ不可變ナ
リト云ハゞ天壤ハ是レ不可變ニシテ萬國無比
ニ非ズ皇統可王ハ既ニ是レ萬國無比ナレバ可
變ナルベシ又夕皇統可王ハ天壤ノ天祖遺勅ニ
同シケレバ即チ天壤ノ不可變ト説クニ同ジト

云ハミ皇統可王ハ天壤ノ非萬國無比ニ同ジカ
ラザレバ皇統可王ハ天壤ノ不可變ニ同ジカラ
ザルベシト尊王論師之レニ應ヘテ云ク但ダ是
レ可變ハ天祖遺勅ニ非ザルガ故ニ天祖遺勅ハ
不可變ヲ證スルヲ得ルナリ不可變ニハ非萬
國無比天壤ト萬國無比天祖トアリ何ゾ萬國無比ヲ
以テ不可變ヲ證スルヲエント如此異法相似
ハ本量ヲ破セントテ本量ノ同喻タル天壤ヲ異
喻トシテ離作法シテ諸不可變者皆見非萬國無
比譬如天壤ト云フニ就キテ不可變ノ者ガ皆ナ

萬國無比ニ非ザレバヨケレドモ不可變中ニ天
壤ノ如キ非萬國無比モアリ又タ天祖ノ如キ萬
國無比モアル故ニ天壤ノ如キ不可變ノ故ニ皇
統可王ハ非萬國無比トヤセン天祖ノ如キ不可
變ノ故ニ皇統可王ハ萬國無比トヤセント云フ
コトニナリテ諸不可變者皆見非萬國無比譬如
天壤ト天壤ヲ異喻トシテ離作法ハナラズ其ノ
ナラヌコトヲ無理ニスル故ニ異法相似過類ノ
似能破ニ墮スル結局ハ同喻ヲ以テ異喻トスル
過類ナリ

○第三ニ分別相似過類トハ分別スベカラザル
 ヲ分別シテ微細ニ分ケスグル過ナリ共和論師
 ガ本量ヲ破シテ云ク我國皇統可王可變宗人之
 所作故因如諸職業同前ト此ノ破意ハ皇統可王
 ハ天祖遺勅ノ故ニ天壤ト同ク不可變ナラバ天
 壤ハ已ニ自然ニシテ人ノ所作ニ非ザルナリ皇
 統可王ハ人ノ所作ナレバ人ノ所作ニ非ザルモ
 ノハ不可變ナレドモ人ノ所作ナルモノハ可變
 ナルベシト人ノ所作ヲ因トシテ宗ノ不可變ノ
 義ヲ異ナラシムルヲ分別相似ト名ヅク然ルニ

此ノ人之所作故ノ因ニ共不定ノ過アリ謂ク皇
 統可王ハ諸職業ノ如ク人ノ所作ナルガ故ニ是
 レ可變トヤセン皇統可王ハ食物ニテ命ヲ保ツ
 ガ如ク人之所作ナルガ故ニ不可變トヤセン如
 此不定ヲ以テ定ヲ破ス故ニ分別相似過類トナ
 ル全體此ノ過ハ古師ノ如ク喻依ヲ喻體トシテ
 天壤ノ上ノ喻體タル天祖遺勅ト長不可變トヲ
 取ラズシテ別ニ人ノ所作ト人ノ所作ニ非ザル
 トヲ分別スル故ニ分別相似過類ヲ生スルナリ
 共和論師ハ本量ニ共不定ノ過アルヲ顯サント

テ天祖遺勅故ノ因ノ外ニ人之所作故ノ因ヲ舉
 グルガ故ニ似ノ共不定ノ過アリ又ク本量ニ違
 決ノ過ヲ顯サント欲スレドモ已ニ如前不定ノ
 過アレバ三相具足ノ定因ニ非ズ故ニ他ノ本量
 ヲ破セント欲シテ却テ自ラ似能破ニ墮スルナ
 リ凡ソ因明ノ法則中ニ因喻之法不可分別ト傳
 フルコトアリ若シ如此分別スレバ一切法ニ同
 喻ナキコトニナリテ法則ヲ失スルナリ

○第四ニ無異相似過類トハ此ノ無異ヲ解スル
 ニ三師ノ釋アリ第一師ノ意ニテハ宗依ト喻依

ト無異ナリト解シ第二師ノ意ニテハ宗ト因ト
 二立無異ナリト解シ第三師ノ意ニテハ所成立
 法ト相違法ト因無異ナリト釋ス第一師ノ宗喻
 無異ノ義ニテ云ヘバ尊王論師ノ本量ハ無過ナ
 ルニ共和論師ヨリ共不定ト違決トノ過ヲ顯サ
 ントテ宗依ノ皇統可王ト喻依ノ天壤ト無異ナ
 ラシノ皇統可王ハ天壤ト同ク天祖ノ遺勅アル
 ガ故ニ皇統可王モ亦タ天壤ノ如ク覆載スベシ
 豈ニ天壤ト異ナル理アランヤノ意ニテ立量シ
 テ云ク皇統可王應覆載宗天祖遺勅故因如シ天壤

同諭 若シ皇統可王モ天壤ト同ク覆載スベシト
 云ハバ共和論師更ニ立量シテ云ク天壤應非覆
 載宗天祖遺敕因如皇統可王同諭若シ然ルト
 キハ皇統ノ一切ト天壤ノ一切ト其ノ義法全ク
 同シテ皇統可王天壤一性ヲ成シテ無異ノ過ヲ
 成ズベシ共和論師更ニ立量シテ云ク皇統可王
 與天壤成一性應無二物宗有同法因猶如餘同
 法同諭ト如是宗依ノ皇統可王ト諭依ノ天壤ト
 相對シテ宗諭無異ナラ令ルガ無異相似過類ノ
 第一釋ナリ然ルニ此ノ宗諭無異ノ難ニ似ノ共

不定ト似ノ違決トアリ先ヅ似ノ共不定トハ先
 キニ立ツル共和論師ノ量ニ皇統可王應覆載宗
 天祖遺敕因如天壤同諭ト云フ共和論師如此
 立量シテ本量ニ共不定ノ過アルヲ顯サントス
 レドモ真ノ共不定ナレバ本量ノ皇統可王長不
 可變ヲ遮シテ皇統可王可變ト舉ゲ而モ天祖遺
 敕ニシテ可變ノ者ヲ同諭トセ子バナラヌ然ル
 ニ今マ能別ニ覆載ヲ舉ゲ而モ尚ホ天壤ヲ同諭
 ニ舉ゲテアリ是レ真ノ共不定ニ非ズ似ノ共不
 定ナリ又夕真ノ相違決定ハ本量ノ能別ヲ遮シ

因諭ヲ改メテ作法セ子バナラヌ然ルニ今ハ本
量ノ能別ニ關係セザル別義ノ覆載ヲ出シ而モ
本因本諭ヲ改メズ其儘用ヒテアリ由テ違決ノ
作法ニ違ス然レバ似ノ違決ニシテ真ノ違決ニ
非ズ如此共和論師ノ違決ニハ強テ抑制シテ非
理ニ宗諭無異ナラ令ルトモ本意ハ反顯シテ皇
統可王ト天壤ト差別シテ同ク天祖遺勅ナレド
モ天壤ハ不可變ニシテ皇統可王ハ可變ト云フ
義ヲ成立スルニアリ由テ第一師ノ如ク無異ヲ
宗諭ニ掛ケテ解スル義ニテハ前ノ第三ノ分別

相似ト無差別ノ難アリ已上第一ノ同法相似ヨ
リ此ノ宗諭無異マデハ皆ナ似共不定ト似違決
トノ相似過類ナリ次ニ第二師ノ義ニテハ第一
師ハ分別相似無差別ノ難アル故ニ之ヲ宗因無
異ニシテ解ス宗因無異トハ共和論師ノ意ニテ
ハ本量ハ天祖遺勅ノ不可變ヲ以テ皇統可王ノ
不可變ヲ成ズ是レ不可變ヲ以テ不可變ヲ成ズ
能立ノ因ト所立ノ宗ト能所宗因無異ナリ乃乃
ヲ伐ラズ指指ヲ示サズ已ニ能所無異一性ナリ
何ゾ天祖遺勅ノ不可變ヲ以テ皇統可王ノ不可

變ヲ成ズルヲエン由テ不成因ナリト云フ尊王
論師通ジテ云ク汝ガ難ハ似不成ニシテ真ノ不
成ニ非ズ云何トナレバ因ハ天祖遺勅ノ不可變
ナリ宗ハ皇統可王ノ不可變ナリ此レ天祖遺勅
ノ不可變ヲ以テ皇統可王ノ不可變ヲ成ズ由テ
能所立差別アリ若シ兩法雜取シテ宗因ヲ成ズ
レバ宗因ニ立無異ト云フベキナレドモ今ハ然
ラズ已ニ能所立ノ差別アリ何ゾ宗因無異ニシ
テ不成因ノ過アリト云フコトヲエンヤ然レバ
汝ガ不成ハ真ノ不成ニ非ズシテ似不成ノ相似

過類ナリ今マ本量ノ天祖遺勅ノ因ヲ以テ四不
成ニ對映スルニ皇統可王ノ天祖遺勅ナルコト
ハ立ノ尊王論師ハ論ナシ敵ノ共和論師モ許ス
コトナレバ兩俱不成ニ非ズ已ニ兩俱不成ニ非
ザレハ隨一不成ニ非ザルコト論ナシ又夕皇統
可王ハ所別不極成ナキ故ニ天祖遺勅故ノ因ニ
所依不成ナシ又夕皇統可王ノ天祖遺勅ナルコ
トハ決定シテ猶豫セザレバ猶豫不成ニモ非ズ
然ルニ共和論師ハ不成ト云フ是レ似不成ニシ
テ真不成ニハ非ザルナリ次ニ第三師ノ義ハ古

師ノ釋ハ所成立法相違法因無異ト云フ此ノ義
ニテハ天祖遺勅故ノ因ハ所成立ノ皇統可王長
不可變ヲ成立スルガ如ク亦夕能ク此ノ不可變
ト相違スル皇統可王可變ヲ成ズ量ニ云ク皇統
可王可變_宗天祖遺勅_因故_因如奕碁_同喻_如天壤_異
喻此ノ能違ノ因ハ同無異有ニシテ同喻ノ奕碁
ハ天祖ノ遺勅アルニ非ズシテ却テ異喻ノ天壤
ニ天祖ノ遺勅アルナリ由テ共和論師ガ本量ニ
相違因有ラ令ント欲シテ却テ已レ相違因ニ墮
ス此ノ能違ノ作法ハ異求ス可ラズ以柯伐柯其

則不遠即チ本量ノ皇統可王長不可變_宗天祖遺
勅_因故_因如天壤_同喻_如奕碁_異等_異喻_ト云フガ直ニ
能違トナル由テ此ノ第三釋ノ無異モ似相違因
ノ似能破ニ墮スルナリ已上ノ四過類ハ惣論ス
レバ古因明師ニ就ク相似過類ナリ
○第五ニ可得相似過類トハ已下ハ新因明ニ就
キテ難ズル過類ナリ此ノ可得相似過類ニ二師
ノ釋アリ第一師ハ餘因可得ノ義ニテ第二師ハ
不徧ノ義ナリ第一師ノ餘因可得トハ本量ヲ皇
統可王長不可變_宗天祖遺勅_因故_因如天壤_北極_同

喻如奕碁等、異喻ト立テ、同喻ニ天壤ト北極ト
 ノ二法ヲ舉ゲテ同品有非有異品非有ノ第八正
 因ノ作法トシテ難ズルナリ難ノ意ハ宗法ノ不
 可變ヲ成ズルハ何ゾ天祖遺勅ノ因ノミニ局ル
 コトヲエン天祖遺勅ノ餘因タル固有故ノ因ヲ
 以テモ成立スルコトヲ得ベシ然レバ宗ノ不可
 變ヲ成ズルハ天祖遺勅ノ一因ト定マラス故ニ
 不定ノ失アリト云フ意ナリ由テ餘因ハ天祖遺
 勅ノ餘ノ固有故ノ因ニ當リ可得ハ不可變ノ宗
 ヲ成ズルコトヲ得ベシト云フコトニ當ル然レ

バ天祖遺勅ノ因ハ正因ニ非ズト云フガ第一師
 ノ釋意ナリ是ハ共和論師ヨリ天祖遺勅ノ因ニ
 不定過ヲ付クル意ナリ天壤ノ如ク天祖遺勅ナ
 ルガ故ニ皇統可王ハ不可變トセンヤ北極ノ如
 ク固有ナルガ故ニ皇統可王ハ不可變トセンヤ
 此ノ不定ハ似不定ニシテ真不定ニ非ズ云何ト
 ナレバ不定ノ因ハ一天祖遺勅ノ因ガ同異二品
 ニ轉ズル故ニ皇統可王ハ不可變トモ可變トモ
 定ノテ一方ヲ成ズルコト能ハザルヲ云フ今マ
 共和論師ハ天祖遺勅ノ因ノ餘ノ固有ノ因ヲ以